

# 令和4年度事業報告書

自 令和4年4月 1日  
至 令和5年3月31日

## 社会福祉法人 緑成会

- ◆ 緑の郷
- ◆ 横浜市美しが丘地域ケアプラザ
- ◆ 横浜市たまプラザ地域ケアプラザ
- ◆ サービス付き高齢者向け住宅 かやの樹
- ◆ 新緑の郷
- ◆ 障がい福祉サービス 桃の実

[ I ] 法人 .....	3
[ II ] 法人の沿革・各施設概要 .....	6
[ III ] 緑の郷 .....	10
■ 1 研修、設備点検・修繕等 報告 .....	10
■ 2 看護課 .....	11
■ 3 生活課 .....	13
■ 4 栄養調理課 .....	18
■ 5 デイサービス課 .....	19
■ 6 訪問介護課 .....	21
■ 7 居宅介護支援課 .....	24
[ IV ] 横浜市美しが丘地域ケアプラザ .....	27
[ V ] 横浜市たまプラザ地域ケアプラザ .....	30
[ VI ] サービス付き高齢者向け住宅『かやの樹』 .....	33
[ VII ] 新緑の郷 .....	37
■ 1 看護課 .....	37
■ 2 生活課 .....	38
■ 3 栄養調理課 .....	42
■ 4 事務課 .....	44
[ VIII ] 桃の実 .....	46

## [ I ] 法人

### 1. 事業経営目標及び経営計画

#### ≪重点目標、計画≫

#### (1) 福祉サービスの質の向上に努めます

- ① 法人理念・運営方針に沿って、職員個々が日々の業務において実践します。
- ② 「利用者本位」のサービス提供を目指し、職員の意識改革と資質の向上を図ります。ご入居者、ご利用者をはじめ、ご家族や関係者に対し、常に誠意をもって丁寧な接遇に努め信頼関係を深めます。
- ③ 個性を十分に理解し、尊厳を守り全職員がプライバシーの保護や倫理等のコンプライアンスの徹底に努めます。
- ④ ご利用者満足度調査を継続的に行い、求められるサービス提供につなげます。
- ⑤ 各種専門職としてのスキルを高めるために、内部研修の実施、外部研修、各種研究大会の事例発表等へ積極的に参加します。法人事業所間の現場レベルでの意見交換会や交流研修を検討します。
- ⑥ 第三者評価、情報公表調査等の外部評価を参考にサービス改善につなげます。

#### (2) 福祉人材の確保、育成の充実に努め人を大切にする魅力ある職場をつくります

- ① 人材を安定期的に獲得するために、採用活動を強化します。
- ② 働きがいのある職場づくりの一環として、継続してキャリアパス、給与体系、評価制度の見直しを適宜行い現状に即した仕組みを構築します。また、働き方改革によるコンプライアンスを遵守します。
- ③ 社会福祉法人の職員として役割を理解し行動できる人材育成を行います。
- ④ 個を大切に尊厳と権利を尊重し、質の高い接遇ができる人材育成を行います。
- ⑤ 職員のメンタルヘルスケアへの取り組みを行います。
- ⑥ 留学生介護福祉士養成（新緑の郷）の支援を継続します。
- ⑦ 外国人特定技能・技能実習生（介護）の受入れ増員を検討します。
- ⑧ 介護人材養成（介護職員初任者研修）事業の導入を検討し、人材確保につなげます。

#### (3) 各事業所の、経営状態を安定化させ法人全体の運営基盤を強化します

- ① 法人本部機能を強化し、全事業所の経営状況を統轄的に管理します。
- ② 各事業所の特色を再構築、サービスコンセプトの明確化、営業戦略と手法を再構築し利用率、稼働率の向上を目指します。
- ③ 事業別に費目管理をすることで責任所在、目標値の明確化、経費削減を図ります。
- ④ 各事業所の人員配置について、迅速かつ効果的に行います。
- ⑤ 各事業所の加算について、定期的に見直し適宜取得できるよう管理します。

#### (4) 地域福祉の向上を目指した地域貢献を継続して積極的に進めます

- ① 地域の担い手としての社会貢献活動を強化するため、事業展開地域における取り組みを継続し、地域住民との協働による活動を検討し実行します。

- ② 地域福祉を担うべき存在である社会福祉法人としての役割を果たすべく、地域ニーズを把握し法人独自の地域活動を各事業別に検討し実行します。
- ③ 生活困窮者や制度の狭間への対応を法人独自サービスとして検討します。
- ④ 地域包括ケアシステムの一翼を担う組織として、地域関連諸団体との連携強化、共同事業の開催、事業協力を積極的に進めます。

(5) 組織のガバナンス強化、積極的な情報公開に努め透明性を確保します

- ① コンプライアンスを遵守します。
- ② 各種情報公開を徹底し、運営の透明性を確保します。
- ③ ホームページ、SNS 等を活用し情報等を公表します。

(6) 各事業の実績目標値

① (緑の郷)

- ・特養、短期入所事業…年間ベッド稼働率 100% (特養 100 床 短期入所 4 床 )。
- ・通所介護事業…年間利用率 90% (1 日 30 名定員)。
- ・居宅介護支援事業…各専任ケアマネジャー 給付ベースの上限件数を保持します。
- ・訪問介護事業…月単収 300 万円。

② (横浜市美しが丘地域ケアプラザ)

- ・通所介護事業…1 日平均利用人数 28 名以上。
- ・居宅介護支援事業…各専任ケアマネジャー 給付ベースの上限件数を保持します。

③ (横浜市たまプラザ地域ケアプラザ)

- ・居宅介護支援事業…各専任ケアマネジャー 給付ベースの上限件数を保持します。

④ (かやの樹)

- ・サービス付き高齢者向け住宅事業…入居稼働率 98% (14 戸)。  
※地域との連携を意識して、各種の地域活動に積極的に参加します。

⑤ (新緑の郷)

- ・特養、短期入所事業…年間ベッド稼働率  
特養 100% (ユニット 40 床 多床室 82 床 計 122 床)。  
短期入所 上半期 30% 下半期 50% (多床室 14 床)。

⑥ (桃の実)

- ・生活介護事業…ご利用者 17 名以上を目指します。

※全事業共通事項…介護、障がい福祉サービスにおける、加算内容の確認及び継続、新規算定についての取り組みを行います。

## 2. 理事会の開催実施

令和4年5月25日	令和3年度事業報告について 令和3年度決算報告並びに社会福祉充実計画（残額）について 監事監査報告 評議員選任解任委員の選任について 第三者委員の選任について 緑の郷修繕（補修）工事について 定時評議員会開催について 新型コロナウイルス感染症経過報告 その他
令和4年11月26日	令和4年度上半期決算報告並びに補正予算（案）について 新型コロナウイルス感染症経過報告 その他
令和5年3月18日	令和5年度事業計画（案）の承認について 令和5年度予算（案）の承認について 評議員会開催について 就業規則・規程等変更の承認について パソコン使用ソフト更新の承認について 役員等賠償責任保険について 新型コロナウイルス感染症経過報告 その他

## 3. 監事監査の実施

令和4年5月20日（令和3年度分）

## 4. 評議員会の開催実施

令和4年6月18日	令和3年度事業報告の承認について 令和3年度決算報告並びに社会福祉充実計画（残額）の承認について 監事監査報告 評議員選任解任委員の選任報告 第三者委員の選任報告 緑の郷修繕（補修）工事について報告 新型コロナウイルス感染症経過報告 その他
令和5年3月25日	令和5年度事業計画報告 令和5年度予算報告 就業規則・規程等変更の報告 パソコン使用ソフト更新の報告 役員等賠償責任保険の報告 新型コロナウイルス感染症経過報告 その他

## 〔Ⅱ〕 法人の沿革・各施設概要

### 1. 沿革

平成元年 9 月 27 日	神奈川県より社会福祉法人緑成会の法人認可 初代理事長 上林正勝就任
平成元年 9 月 29 日	法人設立登記成立
平成元年 12 月 1 日	社会福祉法人緑成会 特別養護老人ホーム緑の郷 事業開始
平成 2 年 4 月 25 日	第 2 代理事長 黒沼勇二就任
平成 4 年 12 月 5 日	法人創立 3 周年記念式典
平成 6 年 12 月 3 日	法人創立 5 周年記念式典
平成 7 年 12 月 20 日	緑の郷観音像（宗英寺）建立
平成 10 年 10 月 1 日	緑の郷 在宅介護支援センター事業開始
平成 11 年 11 月 27 日	法人創立 10 周年記念式典
平成 12 年 4 月 1 日	緑の郷 介護保険適用事業開始 ・介護老人福祉施設 ・短期入所生活介護 ・通所介護 ・居宅介護支援事業
平成 12 年 10 月 1 日	緑の郷 介護予防型 通所事業受託
平成 13 年 1 月 11 日	研修事業開始（雇用能力開発機構ホームヘルパー 2 級養成）
平成 13 年 10 月 28 日	横浜市美しが丘地域ケアプラザ開所式
平成 13 年 11 月 1 日	横浜市美しが丘地域ケアプラザ事業開始 ・受託事業：在宅介護支援センターおよび地域交流事業 ・介護保険事業：通所介護、居宅介護支援
平成 14 年 4 月 25 日	第 3 代理事長 鶴川昇就任
平成 16 年 11 月 1 日	緑の郷 訪問介護事業開始
平成 16 年 12 月 1 日	法人創立 15 周年記念式典
平成 18 年 4 月 1 日	緑の郷地域包括支援センター事業受託（旧在宅介護支援センター）
平成 20 年 2 月 1 日	第 4 代理事長 遠藤一典就任
平成 20 年 9 月 8 日	EPA によるインドネシア人介護福祉士候補生受け入れ
平成 21 年 12 月 1 日	法人創立 20 周年記念式典
平成 23 年 11 月 1 日	横浜市美しが丘地域ケアプラザ 開設 10 周年記念式典
平成 24 年 3 月 28 日	EPA によるインドネシア人介護福祉士候補生 第 24 回介護福祉士国家試験合格（2 名）
平成 25 年 2 月 28 日	横浜市たまプラザ地域ケアプラザ開所式
平成 25 年 3 月 1 日	横浜市たまプラザ地域ケアプラザ事業開始 ・受託事業：地域包括支援センター及び地域活動交流事業 ・介護保険事業：居宅介護支援事業
平成 25 年 7 月 1 日	サービス付き高齢者向け住宅 かやの樹 事業開始
平成 26 年 6 月 1 日	第 5 代理事長 野坂康夫就任

平成 26 年 12 月 24 日	緑の郷地域防災協定締結（中里連合自治会・すすき野連合自治会）
平成 27 年 10 月 7 日	川崎市より川崎市高津区久末特養建設計画 （新設）特別養護老人ホームの運営法人として選定 施設名称「新緑の郷（シンリョクノサト）」
平成 28 年 11 月 30 日	緑の郷（特養併設）地域包括支援センター運営終了
平成 29 年 11 月 1 日	第 6 代理事長、田中 實就任
平成 30 年 4 月 24 日	特別養護老人ホーム新緑の郷 開所式（内覧会）
平成 30 年 5 月 1 日	特別養護老人ホーム新緑の郷 事業開始
平成 30 年 7 月 1 日	障がい福祉サービス 生活介護 桃の実 事業開始
令和元年 12 月 1 日	法人創立 30 周年記念式典
令和 5 年 3 月 19 日	横浜市たまプラーザ地域ケアプラザ運営 10 周年記念式典

## 2. 施設概要

### 【緑の郷】横浜市青葉区

- 運営開始日 平成元年 12 月 1 日
- 土地 主敷地 3315.78 m<sup>2</sup>
- 建物構造 鉄筋コンクリート造陸屋根 4 階建
- 延床面積 3763.58 m<sup>2</sup>
- 建築面積 1415.5 m<sup>2</sup>
- 居室およびその他
  - ・ 28 部屋（104 床）
  - ・ 2 丁目（階）36 床（4 床×8 部屋、2 床×2 部屋）
  - ・ 3 丁目（階）36 床（4 床×9 部屋）
  - ・ 4 丁目（階）32 床（4 床×7 部屋、2 床×2 部屋）
  - ・ 多目的大ホール・多目的小ホール・ラウンジ・生活リハビリ室・事務室
  - ・ 居宅介護支援・訪問介護事務室・看護室・洗濯室・栄養調理室・静養室
  - ・ サロン・面接室・相談室・施設長室
  - ・ 浴室＝個別浴槽、機械浴槽、車椅子浴槽
  - ・ デイサービスルーム（休憩室・浴室）
- 実施事業
  - ・ 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）
  - ・ 短期入所生活介護/介護予防短期入所生活介護（ショートステイ）
  - ・ 居宅介護支援（ケアマネジメント）
  - ・ 通所介護/横浜市通所介護相当サービス（デイサービス）
  - ・ 訪問介護/横浜市訪問介護相当サービス（ホームヘルプサービス）

### 【横浜市美しが丘地域ケアプラザ】横浜市青葉区

- 運営開始日 平成 13 年 11 月 1 日
- 建物構造 鉄筋コンクリート造 2 階建て
- 延べ床面積 1,100 m<sup>2</sup>
- 敷地面積 1,540.53 m<sup>2</sup>
- 相談調整部門（事務室、相談室、ヘルパールーム、地域ケアルーム）
- デイサービス部門（デイルーム、厨房、浴室等）
- 地域活動交流部門（多目的ホール、調理室、ボランティアルーム、情報ラウンジ等）
- 駐車場 あり 身障者用 2 台 一般 4 台 他駐輪所あり
- 併設施設 なし
- 実施事業
  - ・居宅介護支援（ケアマネジメント）
  - ・通所介護/横浜市通所介護相当サービス（デイサービス）
  - ・介護予防支援
  - ・地域包括支援センター
  - ・地域活動交流

### 【横浜市たまプラザ地域ケアプラザ】横浜市青葉区

- 運営開始日 平成 25 年 3 月 1 日
- 建物構造 鉄骨造一部鉄筋コンクリート造 地上 4 階地下 1 建てケアプラザは 4 階一部
- ケアプラザ延べ床面積 580.75 m<sup>2</sup>
- 相談調整部門（事務室、相談室、地域ケアルーム）
- 地域活動交流部門（多目的ホール、ぷらざる一む、調理室、ボランティアルーム等）
- 専用駐車場 なし
- 併設施設 なし
- 実施事業
  - ・居宅介護支援（ケアマネジメント）
  - ・介護予防支援
  - ・地域包括支援センター
  - ・地域活動交流

### 【サービス付き高齢者向け住宅 かやの樹】横浜市青葉区

- 運営開始日 平成 25 年 7 月 1 日
- 建物構造 木造 2 階建て準耐火構造
- 延床面積 784.37 m<sup>2</sup>
- 居室数 14 戸（床面積 31.62 m<sup>2</sup>）各戸（トイレ・ミニキッチン・浴室完備）
- 共有スペース 談話室・食堂ホール
- 専用駐車場 あり

- 併設施設 なし
- 実施事業
  - ・入居事業

### 【特別養護老人ホーム 新緑の郷】川崎市高津区

- 運営開始日 平成 30 年 5 月 1 日
- 土地 主敷地 2,750.65 m<sup>2</sup>
- 建物構造 鉄骨・鉄筋コンクリート造陸屋根 5 階建
- 延床面積 4,395.63 m<sup>2</sup>
- 建築面積 1,165.24 m<sup>2</sup>
- 居室およびその他
  - ・66 部屋 (136 床)
  - ・2 丁目 (階) 48 床 (4 床×11 部屋、2 床×2 部屋)
  - ・3 丁目 (階) 48 床 (4 床×11 部屋、2 床×2 部屋)
  - ・4 丁目 (階) 20 床 (個室×10 部屋、個室×10 部屋)
  - ・5 丁目 (階) 20 床 (個室×10 部屋、個室×10 部屋)
  - ・地域交流スペース ・栄養事務室 ・調理室 ・事務室 ・施設長室
  - ・洗濯室 ・相談室 ・食堂兼機能訓練室 ・共同生活室 ・会議室
  - ・医務室 ・静養室 ・浴室＝個別浴槽、機械浴槽、車椅子浴槽
- 実施事業
  - ・介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム) 従来型
  - ・短期入所生活介護/介護予防短期入所生活介護 (ショートステイ)
  - ・介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム) ユニット型

### 【障がい福祉サービス事業所 生活介護 桃の実】横浜市青葉区

- 運営開始日 平成 30 年 7 月 1 日
- 建物構造 木造 2 階建及び鉄骨造 1 階建
- 敷地面積 308.19 m<sup>2</sup>
- 延床面積 171.64 m<sup>2</sup>
- 実施事業
  - ・生活介護

### [Ⅲ] 緑の郷

#### ■ 1 研修、設備点検・修繕等 報告

##### (1) 令和4年度 緑の郷全体職員研修（新型コロナウイルス感染症にて書面、動画等も活用）

実施日	研修内容
5月25日	個人情報・虐待防止（身体拘束廃止）・倫理研修
6月30日	感染症予防対策研修（高齢者施設における感染対策、基礎知識）
7月12日	摂食嚥下勉強会
7月23日	事故対策研修（ヒューマンエラー）
10月17日	感染症予防対策研修（新型コロナウイルス感染症発症における考察）
11月8日	感染対策研修（基礎知識とガウンテクニック）
2月14日	認知症の医療知識と最新情報
3月1日	虐待防止研修（アンケート結果）
3月14日	事故対策研修（事例検討） 褥瘡対策研修（事例を通して発表）
通年	階層別研修（新任初級・ステップアップ・中級・係長研修・管理職研修）

※上記外、各部署勉強会・研修会の実施、施設外研修等（オンライン）に参加。

##### (2) 設備保守・修繕関係状況

###### ①設備保守

内容	実施日
消防設備等点検（年2回）	4月20日、10月14日
建築設備点検	7月20日
非常用発電機負荷試験	11月15日
防火設備点検	2月10日
エレベーター定期検査	昇降機：7月19日 小荷物用：10月5日
エレベーター定期点検	遠隔点検：毎月、昇降機：年4回 小荷物用：年4回
電気設備点検…受変電設備、非常用発電装置	月次点検：毎月 年次点検 4月10日
浴槽レジオネラ菌類水質検査（年1回）	9月16日
貯湯槽清掃・水質検査（年1回）	11月27日
簡易水道水質検査および水槽清掃…受水槽、高置水槽、減圧受水槽（年1回）	6月23日
害虫駆除（薬液塗布：年2回）	7月14日、1月17日
厨房排気ダクト清掃およびグリストラップ清掃（年4回）	4月5日、7月20日 10月31日、1月5日

## ②修繕等

内 容	実施日
屋上防水改修工事	8月8日～9月20日
エレベーター1号機、2号機 主ロープ交換工事	3月29日～3月30日

## (3) 消防訓練実施

実施日	内 容
10月19日	日中2階寮母室より出火、初期消火、避難誘導。すすき野消防署による消火器、消火用散水栓の操作要領指導。
3月予定分が実施できず	次年度早々に3月分を実施する。

## ■ 2 看護課

### (1) 感染対策を徹底し、ご利用者の生活を守ります

新型コロナ感染症も4年目になり、日々感染対策を徹底しつつ、職員一人一人注意しながらケアにあたっておりました。しかし8月に4階のご入居者12名・職員5名の発症があり、4名入院対応となりました。12月には4階と3階のご入居者合わせて18名・職員7名の発症があり、2度のクラスター発生となってしまいました。8月の発生においては、横浜総合病院の感染症認定看護師に指導や助言を仰ぎ対策を強化した事はかなり効果があり、2度目の発症時において早い対応ができたことに繋がりました。いずれにおいても、医療従事者として、具体的な対応の実施や指導ができたのではないかと思います。今後も必要に応じて、横浜総合病院の協力を仰ぎながら対応していきます。コロナに関しては5月8日より5類に変更になりますが終息したわけではありません。高齢者施設で発症した場合、当施設は従来型でもあり拡大や悪化のリスクが高いのは今までと同様です。持ち込まない為の感染対策を継続しながら、少しでも生活の質が保たれるように対応してまいります。

### (2) 職員一人一人高いモチベーションが維持できるような、働きやすい環境作りを目指します

看護師の場合、基本的技術においてはすでに修得されています。福祉という生活の場における考え方や必要な視点においては、改めて学ぶ事が多い為その習得にあたり、評価基準作成には盛り込むことができましたが、計画としてあげていた指導内容の見直しと必要なマニュアルの作成をする事はできませんでした。次年度において実施できるよう考えていきます。

研修に於いては新しく入職された職員に関しては、看護協会で開催している介護保険施設の看護師対象の研修会へは積極的な参加を促し、福祉施設における看護師の役割について学ぶ事ができたのではないかと思います。今後も外部研修への参加を積極的に進めていくのと同時に、施設内においても、生活の場における健康面からの視点や看護師の役割など指導を充実していきます。

### (3) ケアの質の向上の為、介護職対象の勉強会を実施します

コロナ禍での集合研修でもあり、なかなか計画通りには実施できませんでした。以下2回、直接処遇職員対象に実施しました。

- ・7月12日「摂食嚥下」の勉強会 15名参加
  - ・11月8日感染対策として「感染症の基礎知識とガウンテクニック」 14名参加
- 次年度においても実施に向けて計画していきます。

## ■ リハビリ担当

### (1) 自発性を引き出せるような訓練を提供します（ご本人に適したプログラムの提供）

- ・ご入居者のリハビリ計画については、ケアプランとも連動させながら作成しました。また、ご本人やご家族の意向も尊重し訓練内容に反映しました。
- ・フロアでの生活を主体に心身状態の向上、維持につながるように各部署との連携を意識して取り組みを行うことができました。
- ・一般的なリハビリ以外にも、余暇的な活動もリハビリプログラムに取り込み、ご入居者が楽しく自主的に取り組んでいただけるような取り組みを行いました。また、リハビリ室だけでなく各フロアに出向き、グループリハビリ等の提供も実施しました。

#### 【リハビリメニュー】

日常生活動作訓練、身体機能訓練、基本動作訓練、ポジショニングやシーティング、認知機能訓練、作業療法など。

#### 【余暇活動的メニュー】

ちぎり絵、塗り絵、折り紙、手作り作品、学習療法等。

#### 【グループリハビリ フロアリハビリ】

ベッドサイドリハ、グループ体操、風船バレー、グループレクなど。

- ・特養の年間行事についても、積極的に準備段階から参加し、各部署との連携協力に努めました。
- ・リハビリ褥瘡委員会を定期開催し、ベッド、車いす上でのポジショニングや効果的なクッションの使用など各部署での情報共有に努めました。
- ・食事支援会議やケアプラン等の各種ケア会議に参加し、得た情報を訓練に活かすことに努めました。
- ・リハビリボールを使った訓練は、ご入居者からも好評で身体機能の維持向上にも効果的でした。

### (2) ご入居者、ご家族がゆったり過ごしていただけるような、空間（環境）作りに努めます

- ・リハビリ室が単なる訓練の場だけでなく、フロア外でゆったりと過ごせる居場所作りという意識を持ちながら環境整備に努めました（ご入居者間の親睦、愚痴の言える場所、趣味活動の場所、楽しくお話しができる場所など）。

自主的に来ていただける方も多くなり、ご入居者にとってリハビリ室が生活の一部になっていただけるよう今後も継続します。

### (3) 介護用品等（車いす、自助具など）の適切な管理を行います

- ・今年度も継続して介護用品の定期点検を実施しました。介護状況や生活に併せた介護用品の選択が出来るように今後も適切な管理に努めます。
- ・ご入居者のリクライニング車椅子とティルド式車椅子の利用が高くなってきているために、安心・安全・安楽に努め利用状況に併せて提供できるように整備しました。

#### (4) 地域貢献を積極的に進めます（地域介護予防体操教室、地域カフェサロンの運営協力など）

- ・コロナ禍の影響にて今年度地域貢献活動はすすき野南自治会体操クラブ（体操支援・健康教育）、縁ジョイ倶楽部（体操支援・健康教育）、鉄ちょこっと体操教室の3か所に限定して実施しました。鉄ちょこっと体操教室は、チラシ配布による鉄町エリアへの健康情報提供（年2回）体操・物づくり（お正月飾り）各15名の参加があり、関係づくりに繋がりました。
- 中里地区民生委員と地域状況把握と確認をして、必要な助言をしました（介護保険申請等他）。
- ・地域の方からの個別相談（電話対応）にも適宜対応しました。

### ■ 3 生活課

#### ■ フロア係

##### (1) 介護の姿勢7か条が浸透し、実践できる

- ①業務中は、常時7か条を意識したケアを行えるようにする。

###### <介護の姿勢7か条>

- ①目上の方に対する尊厳が感じ取れる声掛けをします
- ②相手の価値観に合せます
- ③目の高さを合わせて気持ち良く接します
- ④何をするか具体的に伝えて介助します
- ⑤身だしなみはいつも整っています
- ⑥小さな変化に気付き、すぐに対応します
- ⑦心地良く過ごせる環境を作ります（音、におい、照明等）

全フロアスタッフへ様々な方法で意識付けを行い、接遇マナープロジェクトチームでも毎月話し合いの場を設けました。7か条を意識したケアが昨年より行えるようになりました。ただ、夏以降コロナウイルスのクラスター発生や人員不足の為、業務に追われると徹底できない面も見られました。各フロアから7か条をもう少し簡素化(同じ内容の項目をまとめる等)した方がもっと良いのではという意見があった事を踏まえ、各フロアからの意見をまとめ次年度早々に新たな「介護の姿勢」を作成し、各フロアで浸透できるように取り組んでいきます。

##### (2) 介護技術や対人援助技術向上を図る

- ①各フロアにてテーマをもって介護技術、対人援助技術の向上に取り組む。

各フロア以下のテーマを設けて、日々の介護業務にあたり、テーマに沿ったケアが行えるように取り組みました。

- ・2丁目：「介護の姿勢7か条を各自が実践し、ご入居者が安心して生活できる。」

各自7か条のうち1つを目標に1年かけて取り組んでいる。各自7か条の意識づけはできるようになりました。

- ・3丁目：「介護の姿勢7か条を意識づけ理解した内容を実践し、ご入居者が過ごしやすいフロアを作る」

各スタッフ1年通して、「介護の姿勢7か条」意識して実践していたができていない所とできていない所がありました。また、各スタッフが意識できるように「介護の姿勢7か条」を見え

るところに、貼って意識付けの強化を行いました。

- ・4丁目：「介護の姿勢7カ条を実践し、ご入居者の皆様が安心して生活できるフロアづくりに取り組む」

接遇マナープロジェクトチームとは別にフロアのチームとしても「介護の姿勢7か条」の実践に向けて取り組みを行いました。フロア会議で7か条を声に出して読んだり、スタッフルームに掲示したりすることで意識付けを行いました。また、10月にアンケートをとり、各スタッフが実践できているところ・できていないところを振り返り、再度意識が高まるように働きかけました。

- ②専門職として、適切なコミュニケーションがとれるように接遇、マナーの向上を目指す。

各フロアの接遇マナー委員を中心に、1年間取り組みました。クラスターや夏以降職員不足の中でも全体的な底上げはできました。次年度は今年度の目標を継続しつつ、外部の研修等にも参加し今まで以上の接遇、マナーの向上を目指します。

### (3) 専門職としてしてのスキルを高め、働きやすい環境を構築していく

- ①職員自身の目標設定や学ぶべき点を把握、意識しながら業務にあたる。

日々のコミュニケーションを通して、職員間でそれぞれの目標設定、学ぶ点を把握してきました。年間を通じて、互いに現場でそれらが意識できるような働きかけに努めました。

- ②職員同士の連携が円滑に図れるように、目標面談やミーティングを随時実施し、風通しの良い職場環境を作る。

コロナウイルスのクラスターや人員不足の中でも、なんとかフロア業務を円滑に遂行できていたことから、協力しあう風土がより強まったと考えています。目標面談では興味がある分野を聞き、期待についても伝え、1年のゴール設定を設けることができました。

- ③内外部の研修や勉強会に参加し、スキルアップに繋げていく。

コロナ禍や施設でのクラスター発生に伴い、外部研修への参加は昨年度と同様くらいに止まりました。内部研修では2丁目：褥瘡研修、3丁目：リスクマネジメント研修、4丁目：認知症研修という形で全体研修の場で発表を行っています。次年度はコロナウイルスも5類に変更される為、様々な外部研修に多くの職員が参加できるように働きかけていきます。

## ■ 相談係

### (1) 利用稼働率 100%を目指す

- ①新入居受け入れ

年間で26名の退居(死亡:24名)。一般棟待機者が減っていることや、介護老人保健施設から入居までの期間が2週間を要するため、空床ベッドが続くことがありました。稼働率は前年度より多少上がりましたが、短期入所との合算稼働率で見ると下がっています。スムーズな入居につなげる為にも、待機者が常時数名確保できるように引き続き調整していきます。今後も介護老人保健施設から入居までの期間を早めるのは難しい状況があるため、一般棟待機者が減っている現状に併せて対策を検討する必要があります。

- ②待機者連絡

入居待機者に対しての状況確認は、入居判定結果を伝える際に待機者連絡が必要かを確認し、必要な方には毎月のダウンロード日(25日)に待機者連絡を行っています。

### ③短期入所

コロナ禍の影響で、引き続き一般棟は一床減らしての対応や、クラスター発生により受け入れができない状況になるなど、積極的な受け入れができない時期が昨年より多くありました。昨年同様利用されていた方の永眠や他施設入所等もありましたが、年度の後半には空床ベッドも減っており稼働率も安定しました。

## (2) 適切に相談援助業務をすすめ、信頼関係を構築する

### ①事務処理期間と進捗状況の確認

毎月の相談係会議でスケジュールの確認を行い、担当を明確にしています。随時進捗状況を確認し、協力して進めました。

### ②終末期の対応について

多職種連携を行い、ご家族支援も含め対応しました。

### ③制度の理解

全国老協等から発信される新しい情報をキャッチして相談員間で共有しています。

### ④緊急時の対応について

看護課と連携を取り緊急時マニュアルを作成しています。

## (3) 専門職としてのスキルを向上させる

### ①目標設定

施設ケアマネジャーとしてケアプラン管理会議等を充実させ、フロア担当者と連携を図り取り組みました。

### ②研修参加

今年度は外部研修への参加ができませんでした、今後積極的に外部研修にも参加していきます。

### ③動向把握、情報交換

青葉区ケアマネジャー連絡会や幹事会を通し地域の情報、介護サービスの情報などをキャッチしています。また他施設との情報交換の場も作っています。

### ④介護の姿勢7箇条を意識して業務にあたる

相談室内にも7カ条を貼りだし、業務中も意識して取り組むことができました。

## (4) 地域・ボランティアとの繋がりを継続する

### ①ボランティアへ定期的な連絡を実施

年賀状に一言メッセージを記入。その他、電話を入れてお互いの近況報告などを話しコミュニケーションを図っています。

### ②地域の行事やイベントへの参加

地域のお祭りなどに顔を出すことができました。今後、施設でも新しい生活様式を踏まえながらの関りを検討していきます。

【令和4年度 特養年間稼働率】

R4年度	種別	ご利用日数(日)	稼働率(%)	合算稼働率(%)
4月	特養	2,924	97.47	96.63
	ショート	91	75.83	
5月	特養	3,113	100.42	103.88
	ショート	128	103.23	
6月	特養	2,959	98.63	98.01
	ショート	99	82.50	
7月	特養	3,020	97.42	95.84
	ショート	70	58.33	
8月	特養	2,969	95.77	93.95
	ショート	60	48.39	
9月	特養	2,870	95.67	91.07
	ショート	66	55.00	
10月	特養	2,993	96.55	95.50
	ショート	86	69.35	
11月	特養	2,973	99.10	95.10
	ショート	93	77.50	
12月	特養	3,039	98.03	95.56
	ショート	42	33.87	
1月	特養	3,030	97.74	96.28
	ショート	74	59.68	
2月	特養	2,706	96.64	86.85
	ショート	94	83.93	
3月	特養	3,011	97.13	96.25
	ショート	92	74.19	
年間合計	特養	35,577	97.50	95.41
	ショート	995	68.50	

【令和4年度主な行事实績】

	行 事	内 容
4	誕生会	4月誕生者のお祝いを各フロアで昼食時に実施する。職員による余興、行事食提供。
	売店	横浜総合病院より出張売店あり。ご希望に合わせてお買い物を楽しんでいただく。
	鯉のぼり祭り	施設に100匹の鯉のぼりを設置。鯉のぼり週間として、お散歩や写真撮影を行う。
5	菖蒲湯	3・4・5日に、菖蒲湯を楽しんでいただく。
	売店	横浜総合病院より出張売店あり。ご希望に合わせてお買い物を楽しんでいただく。
	誕生会	5月誕生者のお祝いを各フロアで昼食時に実施する。職員による余興、行事食提供。
6	売店	横浜総合病院より出張売店あり。ご希望に合わせてお買い物を楽しんでいただく。
	新茶を楽しむ会	新茶とあじさいゼリーを提供。新茶の色や香りを楽しんでいただく。
	誕生会	6月誕生者のお祝いを各フロアで昼食時に実施する。職員による余興、行事食提供。
7	七夕作業	ご入居者と七夕飾りを作り、笹に飾り付けをする。最後にみんなで七夕の歌を歌う。
	売店	横浜総合病院より出張売店あり。ご希望に合わせてお買い物を楽しんでいただく。
	誕生会	7月誕生者のお祝いを各フロアで昼食時に実施する。職員による余興、行事食提供。
8	夏祭り	昼食にお祭り屋台メニュー提供。大ホールにやぐらを設置し、ゲームコーナーやわたあめ、アイス屋台を準備。
	売店	横浜総合病院より出張売店あり。ご希望に合わせてお買い物を楽しんでいただく。
	迎え火	迎え火を焚き職員にて線香を焚く（感染症対応中につきご入居者の参加なし）
	送り火	送り火を焚き職員にて線香を焚く（感染症対応中につきご入居者の参加なし）
	誕生会	8月誕生者のお祝いを各フロアで昼食時に実施する。行事食提供。
9	敬老祝賀会	節目の方を中心に長寿のお祝いをフロア毎に行う。昼食に行事食提供。感染予防対策のため、ご家族のご招待は中止としている。
	売店	横浜総合病院より出張売店あり。ご希望に合わせてお買い物を楽しんでいただく。
	誕生会	9月誕生者のお祝いを各フロアで昼食時に実施する。職員による余興、行事食提供。
	十五夜	お団子とすすきを各フロアに飾り付けをする。大きな模造紙に貼り絵を行い壁飾り作成する。
	お墓参り	職員にて緑の郷のお墓参りに行く（宗英寺）。（感染症につきご入居者の参加なし）
10	売店	横浜総合病院より出張売店あり。ご希望に合わせてお買い物を楽しんでいただく。
	誕生会	10月誕生者のお祝いを各フロアで昼食時に実施する。職員による余興、行事食提供。
11	売店	横浜総合病院より出張売店あり。ご希望に合わせてお買い物を楽しんでいただく。
	ふれあい作品展	クラブ活動で作った作品や趣味で作った作品を施設内に展示し自由に鑑賞していただく。感染予防対策のため、今年は緑の郷特養のみ展示。
	追悼法要会	緑の郷でお亡くなりになった方々を偲び追悼法要会を行う。近隣の宗英寺ご住職司式。感染予防対策のため、ご遺族の参列は中止している。通常は8月に執り行っているが、施設内感染対策中につき11月に延期して開催している。
	誕生会	11月誕生者のお祝いを各フロアで昼食時に実施する。職員による余興、行事食提供。

12	開設記念	開所記念日のお祝いを兼ねて、昼食時お祝い膳を準備。感染予防対策のため、職員のみでお餅つきを行う。
	売店	横浜総合病院より出張売店あり。ご希望に合わせてお買い物を楽しんでいただく。
	誕生会	12月誕生者のお祝いを各フロアで昼食時に実施する。職員による余興、行事食提供。
	ゆず湯	感染症対応中につき中止。準備していたゆずの香りを楽しんでいただく。
1	新年祝賀会	昼食時に新年祝賀会を開催。新年のご挨拶、お祝い膳を召し上がっていただく。
	売店	横浜総合病院より出張売店あり。ご希望に合わせてお買い物を楽しんでいただく。
	どんど焼き	職員にてお団子を作り、フロアへ飾っている。(感染症につきご入居者の参加なし)
	誕生会	1月誕生者のお祝いを各フロアで昼食時に実施する。行事食提供。
2	節分・豆まき	年男、年女のご入居者に袴を着用いただき、節分の豆まきを行う。職員が鬼に扮装し館内を回る。
	売店	横浜総合病院より出張売店あり。ご希望に合わせてお買い物を楽しんでいただく。
	誕生会	2月誕生者のお祝いを各フロアで昼食時に実施する。職員による余興、行事食提供。
3	ひな祭り	1階ホールと玄関にひな人形を展示。お雛様を見て昔を思い出し楽しんでいただく。当日に甘酒のサービスを行う
	売店	横浜総合病院より出張売店あり。ご希望に合わせてお買い物を楽しんでいただく。
	誕生会	3月誕生者のお祝いを各フロアで昼食時に実施する。職員による余興、行事食提供。
	お囃子来訪	地域の囃子保存会のご協力の元、デイサービス、各フロアに順番にお囃子と共に獅子舞を披露。感染症予防対策のため、大ホールで実施。
	お墓参り	職員にて緑の郷のお墓参りに行く(宗英寺)。(感染症につきご入居者の参加なし)
	お花見会	昼食に行事食を提供。午後には和菓子の提供やフロア毎にレクリエーションを行う。
	お花見ドライブ	フロア毎に日程を分けて3日間でお花見ドライブに出かけ景観を楽しんでいただく。

## ■ 4 栄養調理課

### (1) 健全な給食経営

自作の月間食費計算システムを使用し、各食事提供部門の食費の詳細についてのデータを毎月事務課に提出し、透明性を確保しました。

### (2) 専門性の強化

＜栄養ケアマネジメント強化加算＞

栄養ケアマネジメント強化加算については、管理栄養士の必要配置に満たない為、算定できていなかったものの、当該加算算定に必要な LIFE システムへの申請までを継続して行う事で、適正人員配置後、直ぐに加算算定できる備えを継続しました。

＜人員配置について＞

管理栄養士取得見込みの学生を中心に採用活動を行いました。

(次年度4月に1名採用見込み)

#### <経口維持加算>

自作の栄養ケアマネジメントソフトにより「栄養ケアマネジメント⇒栄養ケアマネジメント強化加算⇒経口維持加算⇒LIFE への報告」を一体的に行う事で安定して加算を算定、維持する事ができました。

※令和5年3月 35名(14,000単位)

算定人数については昨年とほぼ同様の横ばいですが、ご入居者の状況により対象者と数は変動する為、対象者の選出と算定は適性に行え、4割程度の対象者の維持となっています。

### (3) 食事環境の整備

#### <特別養護老人ホーム>

ご入居者、職員の意見を取り入れた新規食事メニューの導入を行いました。個別の食事希望についてはケアプランと連動し、概ね3カ月に1度の頻度で個別食提供を行う取り組みをしました。

#### <デイサービス>

新規の行事食提供はありませんでしたが、既存の行事食と特別養護老人ホームの行事食に連動する形で誕生会特別食、お花見弁当を提供する事ができました。

### (4) 健康情報の発信

#### <地域>

随時たまプラザ地域ケアプラザ企画において栄養講座を行いました。参加地域住民に対し、食を通じた健康講座、レシピ紹介等を行いました。

#### <職員衛生管理>

##### ・横浜健康経営認証

緑の郷は横浜市健康経営認証「AAA」を受賞しています。2年に一度の更新が必要である為、次年度の更新に向け、健康診断結果、職員健康状態アンケートの実施、衛生委員会での検討と職員へのフィードバックなどを継続し、「AAA」更新の準備ができました。

##### ・課題

#### 喫煙

禁煙への取り組みについては事業所固有の取り組みや課題ではなく、社会の潮流になっていますが、緑の郷における禁煙の取り組みは具体性がなく、進んでいないと考えています。職員健康管理の重要項目として禁煙と受動喫煙防止の取り組みを行う必要性があります。

#### <衛生新聞の発行>

職員の健康状態に応じた健康情報の提供として、定期的に衛生新聞を発行、家庭でできる簡単健康レシピの紹介を行っていますが、より職員の目を引く内容で職員共通の健康課題の改善に向けた情報発信を定期的に行う必要があると考えています。

## ■ 5 デイサービス課

### (1) 個々のニーズを把握し、集団的アプローチを行います

個々のニーズ把握としては、担当者会議へ出席し、ご利用者、ご家族と直接話を聞く事や他の事業所と連携することにより、通所介護計画への位置づけまで意識することができました。

プログラムについては、なかなか特徴を出しにくい状況の中で工夫しながら、メリハリのあるプログラムを提供することができました。

《主な実施行事》

- ・ 緑ンピック
- ・ 敬老祝賀会&イベント食
- ・ 正月飾り作り
- ・ クリスマスランチ&デザート
- ・ 年忘れ演芸会

以上のレクリエーションは年ごとに内容を変更しています。

**(2) 生活と仕事の調和がとれた職場環境を作ります**

年度の前半で職員の入退職が多くあり、個々のスキルアップへの対応ができませんでした。また、現在の職員体制はゆとりがなく、コロナウイルスの濃厚接触や感染によって、職員への負担も増えてしまった現状があります。しかし、人件費の増加は困難であり、継続的な工夫が必要だと考えています。

**(3) 収入の安定を図ります**

コロナのクラスターにより、ご利用者が激減してしまい臨時的にコロナ減3%加算を取得しました(9月から4月まで)。また、職員の欠員等もあり新規ご利用者獲得への動きもできませんでした。

**(4) 地域に信頼され、開かれたデイサービスを目指します**

今年度は社会福祉士養成校の実習生や中学校の職業体験を受け入れました。職員にとっても、ご利用者にとっても刺激を得られた機会であったと考えています。

ボランティアは、これまでできていた方の活動再開を目指しましたが、当人も高齢となり活動を控えられたことや感染状況により一時受け入れが困難になったこともあり、十分な受け入れ体制を整えることができませんでした。

**(5) 食事の充実を図ります**

食材費の高騰などもある中、特養との差別化を図り、工夫して提供することができました。個別の嗜好に対応することは困難でしたが、概ね満足いただけたと考えています。疾病による制限にも適切に対応できました。管理栄養士が配置されている事の強みを活かすことができています。

**【通所介護 利用実績 (延べ人数)】**

4月	5月	6月	7月	8月	9月
459	492	489	484	395	418
10月	11月	12月	1月	2月	3月
414	400	386	348	354	410

【総合事業 利用者実績（契約者数）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
16	16	16	15	15	14
10月	11月	12月	1月	2月	3月
12	11	11	11	10	10

■ 6 訪問介護課

(1) 活動実績状況について

①活動実績の推移

月	利用者数	利用回数	総時間	新規利用者	介護報酬	ヘルパー人数
4	90人	684回	627:32時間	2人	2,830,528円	18人
5	90人	737回	678:47時間	1人	3,523,680円	18人
6	91人	769回	693:49時間	1人	3,224,648円	18人
7	89人	697回	648:50時間	0人	3,232,405円	18人
8	90人	732回	688:28時間	2人	3,276,934円	18人
9	88人	705回	657:07時間	0人	3,125,559円	18人
10	90人	651回	631:30時間	1人	3,112,116円	18人
11	90人	638回	629:16時間	2人	2,998,797円	18人
12	89人	613回	597:30時間	3人	2,932,163円	18人
1	86人	562回	530:00時間	2人	2,517,303円	17人
2	88人	589回	550:05時間	3人	2,659,618円	16人
3	87人	688回	638:20時間	0人	3,118,728円	16人
延べ計	1,068人	8,065回	7,571:14時間	17人	36,552,479円	211人
月平均	89人	672回	631:05時間	1.4人	3,046,040円	18人
(参考)前年度月平均	96人	708回	666:05時間	3.3人	3,082,015円	21人

※介護報酬は特定事業所加算Ⅱ、処遇改善加算Ⅰ、特定処遇改善加算Ⅰ、10月から介護職員ベースアップ加算を含む

②要介護度別利用者数

月	不明	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申請中	合計
4月	1	14	15	21	19	7	3	8	2	90
5月	2	11	15	21	21	8	3	8	1	90
6月	1	11	17	19	19	7	3	8	6	91

7月	1	8	16	21	20	9	3	7	4	89
8月	1	9	17	19	21	8	3	7	5	90
9月	1	9	17	18	22	9	3	6	3	88
10月	1	7	18	21	22	9	4	6	2	90
11月	1	8	16	23	21	8	5	6	2	90
12月	1	9	17	22	21	8	6	5	0	89
1月	1	10	16	20	17	8	7	5	2	86
2月	1	10	18	19	18	9	6	5	2	88
3月	1	8	19	18	19	9	7	5	1	87
割合	1	11	19	23	22	9	5	7	3	%
(参考) 前年度	1	14	16	30	20	6	4	6	3	%

※不明とは介護保険外のみのご利用者で認定期間切れや介護度が不明の方

### ③まとめ

- ・10月から介護職員等ベースアップ加算2.4%を算定することになったことと、要介護3から要介護5のご利用者の割合が増えて身体介護の割合が増えてきていることから、令和2年度4,568円/時間→令和3年度4,627円→令和4年度4,827円と時間単価は上がっています。しかし稼働できる非常勤ヘルパーの人数は減少していることから実働時間数（月平均）が令和2年度709:46H→令和3年度666:05H→令和4年度631:05Hと減少し続けており、その結果介護報酬の月額、令和2年度3,242,529円→令和3年度3,082,01円→令和4年度3,046,040円と減収しています。
- ・非常勤ヘルパーの減少の要因は、一時的な休業と退職の両面があります。一時的なものとしては、コロナ感染や濃厚接触者になった者、コロナ以外の病欠でのヘルパーの休業でした。退職理由としては他社への転職、心身の状況により特養勤務に専念するため、高齢になったため、転居するためといった理由となります。非常勤ヘルパーの高齢化も進んでおり今後も退職者が断続的に出てくることは避けられない状況です。（令和5年満年齢で全員平均67.4歳、サービス提供責任者平均62.75歳、非常勤平均（休職2名含む）69.0歳。15名中8名が70歳代で最高78歳）
- ・活動可能なヘルパーの減少により新規ケースの受け入れが困難になり、新規の依頼は常にあるもののなかなか受けられない状態が続いており、ご利用者数も減少しています。
- ・退職や休職しているヘルパーが担当していた訪問を他の非常勤ヘルパーに担当変更して対応できるのが理想ですが、空き時間のあるヘルパーはほとんどいなく、サービス提供責任者4名で対応するしかなく、月の訪問時間数が最高110時間を超えるなど恒常的に80～100時間に上っており、体力的に厳しくサービス提供責任者の業務に支障をきたし始め、公休や有休消化が滞っています。このため令和5年度は非常勤ヘルパーの新規採用や休業ヘルパーが戻ってくるまでの間は、やむを得ず新規の受け入れは休止せざるを得ず、施設入所や死去による契約終了を待ち自然減少を待ちたいが、状況によっては他訪問介護事業所への契約変更をお願いすることも考えています。さらに、訪問スケジュールの工夫により、休暇の取れる働き方に移行していきます。
- ・登録ヘルパーの居住地がすすき野大場町鉄町あたりに集中していますが、最近の新規の依頼は美し

が丘や美しが丘西などが多く、登録ヘルパーでは対応できず、サービス提供責任者4人が車で訪問することになり駐車場のないお宅の訪問はお断りすることが多くなっています。訪問介護課が優先的に使用している3台の車だけでは不足することが増えているため、現状居宅介護支援事業所部門が優先的に使用している1台のほかにもう1台駐車許可証の申請をしたいと思えます。

- ・保険外サービス利用時間 40.7時間/月（3年度 44.3時間/月、2年度 43.8時間/月、31年度 37.8時間/月、30年度 41.3時間）ではほぼ月40時間程度。昨年度に比べ毎日利用されていたケースが終了となった分が減少となりました。内容的には、定期利用はご家族がいる場合の生活援助の応分分配が主です。不定期利用は通院・買い物介助時の自費部分がほとんどを占めています。
- ・要介護のご利用者は66%で、3年度66%、2年度62%、31年度58%と状況変わらず。その中でも要介護3～5の比率が、2年度10%、3年度16%、4年度21%と上昇しており、それに伴い身体介護の比率も上昇しています。
- ・「かやの樹」のご利用者は令和5年3月現在で4名です。

## (2) ヘルパーの育成等について

### ①ヘルパー研修

- ・今年度もコロナの影響で、集合型の研修は5月28日の1回のみ。特養の状況に合わせて集合型は休止し、昨年度から開始した毎月書面研修として問題を配布し、月末までに提出させる方法で継続し、提出率をあげるため期日までに決められた内容で提出した者に研修手当を支給しました。
- ・引き続き『緑の郷ヘルパー通信』を毎月1回給与明細の配布と併せて全ヘルパー宛に作成配布。研修の通知や連絡事項、記録の仕方などを指導。これに加え、次年度は奇数月に一度集合型の研修を訪問介護独自で行い、ケース検討等にも踏み込んでいきたいと考えています。その他緑の郷全体研修の開催時には、非常勤ヘルパーも含め全員に再度周知をし、積極的な参加を促していきます。

### ②サービス提供責任者ミーティング

- ・昨年度から月に1回サービス提供責任者4名でのミーティングを定期的で開催する予定でしたが、コロナの発生やヘルパーの休職等への対応で1/2程度しか開催できませんでした。次年度は短時間でも時間を設けて毎月課題の洗い出しや共通認識の徹底という意味でも開催し、サービス内容、方法についての改善を検討し、問題ケースの検討や情報の共有を行います。

### ③ヘルパー採用について

- ・新規登録ヘルパーの採用なし。常時募集はしている状態ですが、問い合わせもありません。
- ・横浜市訪問介護等資格取得支援事業の活用にて、チラシでの広報を行いました。応募はなし。
- ・新規登録ヘルパーを採用しなければ、非常勤ヘルパーの退職とともに徐々に縮小（ご利用者の減）せざるを得ない状況にあります。

## (3) 新型コロナ関連

### ①感染対策

各ヘルパーには訪問前後の手指のアルコール消毒、入室時の手洗い、入室中の不織布マスク着用、食事介助、口腔ケア、入浴介助等によりマスク着用できない方へのケア中にはフェイスシールドも着用することを継続しました。また、サービス提供責任者は毎日自宅で検温して事務所の体温表に

記入し、非常勤ヘルパーには毎月配布した体温表に毎朝検温して記録し、翌月提出させています。体調変化があった場合には即時管理者に連絡をさせ、状況により抗原検査キットを届けて検査させるようにしています。

#### ②ご利用者、ご家族の状況

感染状況が落ち着くにつれ、マスク着用をされないご利用者が増えました。また、同居および二世帯同居のご家族や、定期的に訪ねてこられるご家族の感染が目立ちました。ご利用者の体調不良があっても事前に連絡がなく、訪問したヘルパーが濃厚接触者となり休業せざるを得ないこともありました。同様に、ご家族の感染があっても連絡をいただけないケースが多かったです。

#### ③次年度の対応

5類へ移行しても当面は対策を継続します。各ヘルパーに抗原検査キットを配布しておき、体調不良の場合は事前に管理者に連絡をして指示を受けたうえで検査を行いその後の対応を判断します。

### (4) その他

#### ・LINEWORKS の活用

LINEWORKS によるスマホでの毎回の報告と情報の共有、一斉連絡やアンケートにて連絡報告ツールとして継続利用中。さらに利用方法を工夫して報告等入力作業負担の軽減を図りたいと考えています。

- ・記録の書式をチェック欄のみのものに切り替える予定でしたが、ケースにより毎回の活動内容の詳細報告をご家族や他サービス事業者が確認したい場合、従来の記述欄のある記録用紙を継続して使用するなど、ケース毎の事情に合わせて選ぶことにしました。

## ■ 7 居宅介護支援課

### (1) 個々のご利用者・ご家族のニーズに的確に応え、自立支援に向けたケアプランの作成に努めます

- ・介護保険制度、報酬改定の内容を正しく把握し、ご利用者に対して正しく説明できるよう努めました。
- ・公正中立なケアプラン、根拠あるケアプランの作成に努めました。
- ・介護サービス、地域資源、医療機関について新しい情報を収集・整理しご利用者の希望やニーズに合わせて情報提供できるよう努めました。

### (2) 医療・介護の連携強化に努めます

- ・医療系サービスをケアプランに位置付けた根拠を明確にし、主治医の指示内容を確認しました。
- ・退院前カンファレンスへの出席、主治医・訪問看護師との連絡など、医療との連携に努めました。
- ・個別ケースにおいて、管轄包括と区役所（高齢支援・生活支援）間で情報の共有や検討をするなど連携を図りました。
- ・主治医にケアプランを交付し、情報共有する事に努めました。
- ・自立支援、重度化防止のため、リハビリ、訪問介護との情報共有に努めました。
- ・ターミナルケアマネジメントを行う体制を整備しました。

### (3) 上限件数の維持と、継続した収入の確保ができるように努めます

- ・法令を遵守し、適正な給付管理の実施と、適正件数が維持できるように努めました。

- ・年間の収入=1,000万円を確保しました。
- ・「新型コロナウイルスに係る臨時的取り扱い」の適用、介護保険認定有効期間の長期化により、認定調査依頼件数減少の中、委託された調査は必ず行うよう努めました。

**(4) 法人サービスの利用率の向上、及び、法人サービスの質の向上ができるように他部署との連携強化を図ります**

- ・各サービス部門との連携を密にして、ご利用者へのサービス向上を図るよう努めました。
- ・ご利用者のニーズに応じ、当法人サービスの情報を提供し、利用率の向上を図りました。

**(5) 居宅介護支援事業所としてのサービスの質、向上を目指します**

- ・個人スキル向上のため必要と思われる研修への参加、及び個人の研修目標を立て取り組みました。
- ・2か月に1度の法人他部署とのスーパービジョンを通して、対人援助技術を深める事に努めました。
- ・特定事業所加算事業所としての要件である毎週1回開催の居宅会議を通して担当ケースについての問題点、ケアプランについての評価を行い、ケアマネジメント技術の向上に努めました。その他、テーマごとに担当を決め研修を行いました。
- ・ケアマネジャーと24時間連絡が取れる体制を整えました。
- ・サービス向上に繋がるようご利用者へのアンケートを実施し、集計結果をご利用者へ配布しました。

**(6) 外部との連携を図り、選ばれる事業所を目指します**

- ・地域包括支援センター、青葉区医師会等が開催する事業に積極的に参加し、外部との連携を図りながら、「選ばれるケアマネジャー」を目指しました。

○令和4年度月報集計

	登録者数 (介護)	登録者数 (予防) ※委託	給付数 (介護)	給付数 (予防)	月遅れ給付数 (介護)	新規者	中止者	※ 認定調査
4月	106	33	96	32	3	3	1	3
5月	106	33	98	29	6	2	5	2
6月	101	33	92	28	4	2	5	2
7月	99	28	93	24	4	2	5	2
8月	100	27	90	24	2	3	1	7
9月	104	28	94	28	6	5	0	6
10月	103	31	96	26	6	4	0	6
11月	100	31	95	26	6	4	0	5
12月	105	31	98	28	1	5	0	6
1月	105	32	96	29	0	3	2	6
2月	100	30	93	27	0	2	0	3
3月	100	30	93	27	6	1	0	5
※合計	1,229	367	1,134	328	44	36	19	53

	(1, 191)	(421)	(1, 112)	(389)	(34)	(36)	(8)	(19)
--	----------	-------	----------	-------	------	------	-----	------

※認定調査は、他区、他県からの依頼についても含む。※合計の( )内の数字は、令和3年度のもの。

○介護給付費請求書等集計 年間収入 21,067,391 円(月平均 1,755,615 円) 前年度収入 18,604,792 円

《内訳》 居宅介護支援費 19,442,787 円(月平均 1,620,232 円)

(※前年度居宅介護支援費 16,814,033 円)

介護予防支援委託費 1,411,754 円(月平均 117,646 円)

(※前年度介護予防支援委託費 1,713,026 円)

認定調査委託料 212,850 円(月平均 177,375 円)

(※前年度認定調査委託料 94,050 円)

## 【IV】横浜市美しが丘地域ケアプラザ

### 1. 委託事業部門

#### (1) 地域包括支援センター・地域活動交流

地域の高齢化に比例して、地域包括支援センターに寄せられるご相談は年々増加傾向にあります。

5年後、10年後を見据えての地域包括ケアシステム構築には、公的サービスや医療体制の他、住民主体の地域活動の多様化、活性化に向けての支援が必須の取り組みです。指定管理部門ではそれぞれの部門の事業展開の基軸として6職種（地域包括支援センター：看護師・主任ケアマネジャー・社会福祉士生活支援体制整備：生活支援コーディネーター 地域活動交流：地域活動交流コーディネーター・所長）で以下3項目の取り組みテーマを共有し、地域への働きかけを行いました。

#### ■身近な地域でつながりを持つことの必要性と効果の普及啓発について

- ・「つながり」の必要性、メリット、つながりステーションとしてのケアプラザの機能の説明を講座の中で周知しました。また、認知症理解普及啓発活動としての「つながりの灯 キャンドルアート展」は「つながり」をテーマとしたイベントとなり、趣旨に賛同いただいた地域住民、近隣施設から400個を超えるキャンドルホルダーが集まりました。
- ・子育て世代のつながりに関しては、子育て事業の時間の後半に参加者同士や講師と話ができて、地域や親同士等のつながりを感じていただけるように工夫しました。新生児から入園前までの世代が順を追って一緒に成長を見守れるような事業の組み立てをして、子育ての不安感の軽減や親同士・子供同士の繋がりが身近な地域で構築できる場として展開しています。

#### ■身近な地域でお互い様の関係性を構築するための取り組みについて

- ・自主事業としてケアプラザが主催してきたノルディックウォーキングに関しては、今年度自主化することとなり、お互いに連絡を取り合う関係づくりに発展することができました。
- ・お一人暮らしの高齢世帯が増えている現状から、お互いが支えあう関係性の構築を目指して実施を検討していた一人様講座については、当事者である地域住民の方へ開催に向けての意見聴取を行い、ニーズを確認することができました。講座開催時の協力を申し出て下さる方の声も上がり、次年度の事業として展開することにつながりました。

#### ■地域でのお互い様の見守りの体制づくりの取り組みについて

- ・昨年度より継続し、若年性認知症の方の個別地域ケア会議から、認知症の理解を深める為、自治会を巻き込んだ認知症サポーター養成講座を繰り返し開催しました。サポーター養成講座開催には、受講対象者の選定や受講者への呼びかけ等、地域で活動する自治会役員や民生委員等が協力して下さいました。また、担当エリアの他の自治会にも取り組みについての報告を行い、協働を呼びかけることができました。

#### (2) 施設の適切な運営について

##### 【公正・中立性の確保について】

- ・ケアプラザの公正・中立性の見地から掲示物・配架物については適正な選定を行いました。
- ・事業所の選定支援の際にはハートページを基本に一覧をお示ししご説明しました。しかしながら実際は、特に居宅介護支援、訪問介護の事業所選定については、対応が可能な事業所が少なくなってきた

いる現状があり、選定の支援については課題を抱えております。

【コンプライアンスへの対応について】

- ・事故防止委員会が中心となり、月間で提出のあったヒヤリハットをまとめ、毎月職員用掲示板に掲示しました。報告のあったヒヤリハットを全職員が自分事として捉えることで、業務の改善を図ることができました。
- ・個人情報保護に関わる研修を年度始めと終わりに研修を実施しました。指定管理施設等で発生したコンプライアンス等事故案件の周知は、職員の意識向上に大いに役立ちました。

## 2. 介護保険事業

### (1) 居宅介護支援事業

- ・コロナ感染蔓延予防の観点からモニタリング訪問や担当者会議など、利用者の意向を尊重し訪問や電話・書面など臨機応変に対応し大きな問題はありませんでした。
- ・法人内居宅介護支援事業所管理者会議を8月・2月と実施、業務の検討や情報共有など行いました。
- ・各ケアマネジャーの年間研修計画を策定し目標を持って研修に参加(主にWEBでの参加)、自己研鑽に努めました。ケアマネジャー更新研修を受講しました。
- ・特定事業所加算Ⅲについて法令を遵守した運営を行い、算定を継続する事ができました。
  - 認知症独居の方や過度な要望の多い方など包括からの相談により支援困難ケースを受け入れ、行政・包括支援センター・地域の関係機関などと課題解決に向け連携しました。
  - 他法人事業所との研修会を下半期の11月に実施しました。
  - 毎週1回、会議を行い各担当ケースの報告・検討、ケアマネジメント業務の振り返り、勉強会等を実施しました。
  - 24時間緊急相談について、年間を通して連絡はありませんでした。
- ・給付件数に関して入院や入所されたケースが多く、上限件数を維持する事ができませんでした。また、要支援の方々の相談が多く新規受け入れを行いました。

【利用実績】 単位：件

介護給付数

4月	5月	6月	7月	8月	9月
95	92	98	98	96	97
10月	11月	12月	1月	2月	3月
97	91	89	93	95	92

予防給付数

4月	5月	6月	7月	8月	9月
25	26	27	27	27	28
10月	11月	12月	1月	2月	3月
29	30	30	32	31	31

## (2) 通所介護事業及び総合事業

- ・ご利用者が安心して過ごせるよう職員も安心して務められるよう今年度も昨年度同様、感染予防対策の強化をしました。
  - ① 昼食対応時の職員はマスク、フェイスガード、エプロン着用にて対応
  - ② 入浴介助時の職員はマスク、フェイスガードにて対応
  - ③ 利用中の手指消毒の回数を増やすと共に乗降する前に消毒と検温の徹底
  - ④ ご利用者の座席に設置するパーテーションを設置し飛沫防止を更に強化してサービス提供
- ・感染者数が増大した7月は3日間、12月は5日間、法人本部と協議し自粛営業としました。職員やご利用者の感染、濃厚接触者該当による自宅待機等により職員配置の調整やご利用者ご家族の不安を傾聴、情報開示しながらその後は通常サービス提供を継続しました。しかし感染懸念の為、利用を控えるご利用者も増え利用率の回復が厳しい状況となりました。
 

感染における職員の勤務への不安軽減の為、週1回の抗原検査の実施、近隣施設や他部署職員の体調不良や感染状況等の情報を開示し、情報共有と傾聴により不安軽減に努めました。
- ・感染拡大が終息し始めた頃は、ご利用者に控えていただいていた活動（麻雀、トランプ等）再開をしましたが、感染拡大の為に短期間で休止せざるを得ない状況となりました。
- ・昨年度同様、近隣小学校の卒業生へのメッセージカードとコサージュ作りを実行し、当施設の貸し団体を利用されている地域の住民の方々にもご協力いただき、学校側からも感謝の意を頂戴しました。
- ・年明けに常勤職員を補充しましたが、十分な営業や利用率回復対策を検討ができず課題が多く残りました。
- ・研修については書面開催にて対応しました。

### 【通所介護 利用実績（延べ人数）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
506	527	535	427	513	515
10月	11月	12月	1月	2月	3月
498	482	317	409	394	426

### 【総合事業 利用者実績（契約者数）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
11	12	12	10	8	10
10月	11月	12月	1月	2月	3月
10	11	13	13	10	12

## 〔V〕横浜市たまプラザ地域ケアプラザ

### 1. 委託事業部門（地域包括支援センター、地域活動交流）

昨年度に引き続き、感染症対策を徹底して、当初の計画通りの事業実施に支障が生じた場合においても、柔軟に変更・対応することで、コロナ禍での安全な事業開催や業務展開を図りました。

具体的な取組として、認知症普及啓発を目的とした「認知症つながりシンポジウム」を開催し、第一部で基調講演、第二部では介護者の方や関係機関の各識者をパネリストにお迎えしてシンポジウムを開催しました。感染症対策の一環として、換気および十分なスペースが確保できる民間の会場を借用し、150名のご参加をいただいて、事故もなく開催することができました。

次に、地域資源のネットワーク構築として「たまプラザ士業ネットワーク」を開催。青葉区全体の医療介護連携のための取り組み、ICTの活用した多職種連携ネットワーク等々、新たな取り組みを展開していくことで、青葉区の地域包括ケアシステム推進に寄与しました。

子育て支援における主な事業として、「たまプラザ保育園ネットワーク会議」を開催しました。近隣の公立保育園とおよそ20の私立保育園にご参加いただき、Web会議を年3回実施しました。子育て支援に関する情報共有、保育園と地域の親子、また保育園同士の地域をつなぐ貴重な機会となりました。ネットワーク参加の保育園が、当ケアプラザの親子のあそび場事業「スマイル♡ファミリー」にも参加していただき、地域の親子と交流を深めました。親子にとっても気軽な相談ができる機会となり大変好評を得ました。

以下、令和4年度に取り組んだ事業項目となります。

- ・地域の集いの場や、地域福祉保健関係者の定例会等で、地域ケアプラザの機能や役割を説明して、地区住民にケアプラザが身近な存在であることをPRしました。
- ・地域ケア会議の開催を通じて、地域課題の抽出し、地域住民と一緒に地域サロンを開設しました。
- ・後見人業務を担う弁護士等の士業同士の交流を目的とした「たまプラザ士業ネットワーク」を開催しました。また「神奈川県弁護士会と青葉区内地域包括支援センター社会福祉分科会との意見・情報交換会」の開催、ケアマネジャー向け研修会「包括カンファレンスⅠ」にて「ケアマネジャーと士業の意見・情報交換会」を開催。高齢者の意思決定・権利擁護支援を推進していくために、普及啓発活動、ネットワーク構築の中心を担い、制度や支援を必要とする人につなげました。
- ・「認知症つながりシンポジウム」や「認知症サポーター養成講座」「認知症予防カフェ」「介護者の集い」の事業を通して、地域住民へ認知症の理解および地域で支えあうための仕組みづくりや認知症患者とその家族を支える体制構築に繋がりました。
- ・地域の医療・看護・介護・福祉の関係者・機関・団体との情報共有や、個別相談の地域・相談種別等の分析を行い、地域の課題を整理しました。その具体的な取り組みとして、ケアマネジャー向け研修会「包括カンファレンスⅠ」を開催し、ケアマネジャーと薬剤師・管理栄養士との意見・情報交換の機会を設け、医師向け研修のパネリストをケアプラザ職員が務めるなど、医療・介護のネットワーク構築に寄与しました。また、相談から抽出した課題を分析し、他職種・機関や地域住民と共有する機会を設けました。

- ・担当地域の高齢者向けに介護予防や健康づくりの意識をさらに高めていただくために、区役所担当職員や青葉区在宅医療連携拠点職員、地区保健活動推進員、元気づくりステーション関係者等と連携して、高齢者支援を推進しました。
- ・昨年度から毎週火曜木曜と定期開催している親子のあそび場事業「スマイル♡ファミリー」については保育士資格のもつ専任の職員を配置して、親子が安心して気軽に参加できる居場所づくりに取り組んできました。乳児親子向けにねんね講座や栄養相談を定期的に開催して、お子さんを安全に見守りながら相談できる場を提供しています。
- ・そのほかにも地域の子育て世帯を対象にした事業を多角的に展開しました。  
乳幼児親子向けには「おやこリトミック」や「おはなし会」「栄養」「ねんね講座」等、学びあい交流しながらお子さんの成長に寄り添う子育て支援事業を実施し、専門講師と相談できる場を作りました。小学生対象には「科学ワークショップ」等を実施し、親子で学び実験などを通して知的好奇心を喚起させるような講座を開催しました。帰国子女や低年齢の受験が多いため、中高生には、ワークショップにてボランティア参加に誘導して、地域に繋がる機会を提供しました。また、近隣の大学に年2回出前授業を行い、ケアプラザの役割や地域の子育て支援の状況について講義を行いました。コンサート事業や子育て支援事業にも近隣の大学生ボランティアを募り、多くの学生に参加していただきました。こうした結果、地域交流事業全般で、自然と多世代交流が実現しました。
- ・多世代交流事業として、民間事業者や区民ボランティアの協力のもと、地域散策事業を行い、あらためて地域の魅力を知る機会を提供しました。地域住民が、自分の暮らす街の歴史に触れていただくことで、『いつまでも住み慣れた地域で暮らす』ことへの意識が強まり、地域活動に参加するきっかけにつながりました。
- ・「健康ボイストレーニング講座」を開催した際は、地区保健活動推進員の方々の協力を得ることができ、近隣の大学生ボランティアも加わり、多世代の交流する事業となりました。
- ・高齢者支援以外の取り組みにおいては、行政の各機関や、地域の障がい支援機関と連携することで、お困りごとを抱える障がい者・生活困窮者に対し、早期発見、早期対応の体制を構築して、支援しました。

## 2. 施設の適切な運営について

### (1) 公正・中立性の確保について

- 地域住民からお問合せには、その方の属性（居住地や世代等）にかかわらず、すべての方に対して丁寧且つ公平中立に対応しました。
- 介護保険サービスに関する利用希望があった際、介護サービス事業者ガイドブックの内容に基づいて複数の事業所を提示しました。
- 居宅介護支援事業所や介護保険サービス事業所等を仲介・調整する際は、本人、家族には各事業所の特徴や内容、所在地等の情報を伝えた上で、本人、家族に選定していただきました。本人、家族の意向を尊重して、特定の事業所にサービス提供依頼が偏らないように公正・中立性を確保しました。
- ケアプラザの貸館業務については、施設利用マニュアルを遵守し、公平性をもって施設管理運営を行いました。駅近の立地のため、区民の貸館利用希望が多く、利用希望が競合する場合には公開抽選をもって公正中立的に対応しました。

## (2) コンプライアンスへの対応について（事故防止、個人情報保護等）

- 事故防止については、様々な状況を想定した対応を備え、全職員が横断的に組織構成している『安全管理委員会』において、[防火・防災対策][医療・感染症対策][車両整備][事故防止・インシデント対策]の専門部会を設けて、事案の検証と設備点検作業を行いました。
- 個人情報保護については、「個人情報保護に関する規程」を定め、職員に遵守することを義務付けています。個人情報保護研修は年度初め必ず実施し、個人情報の取り扱い方や自主点検を行い、漏洩事故防止に努めました。今年度は個人情報漏洩事故の発生がありませんでした。

## 3. 介護保険事業部門（介護予防支援・居宅介護支援）

### (1) 介護予防支援

- ・地域包括支援センター職員や介護予防プランナーが、ご利用者に寄り添い、ご利用者が望む自立した在宅生活が送れるよう、介護予防ケアマネジメントを行いました。
- ・担当地域の居宅介護支援事業所（ケアマネジャー）が、ご利用者の自立に向けた介護予防支援・ケアマネジメント業務が適切に行えるように、支援しました。
- ・「要支援」の介護認定を受けている方が増えているため、担当地域外の居宅介護支援事業所とも連携し協働しました。
- ・介護予防ケアマネジメントの手法について、適宜研修を開催して、ケアプラン作成担当者の個々のスキルアップに寄与しました。

### (2) 居宅介護支援

- ・ご利用者の心身の状況やご意向に応じて、適切なサービスが利用できるようケアマネジメントを提供しました。ご利用者アンケートにおいても、満足度の高い回答を得て評価していただきました。
- ・併設する地域包括支援センターと連携して、地域課題を含め対応困難な事例を積極的に受け入れ、丁寧なかかわりに努めました。
- ・他の居宅介護支援事業所とも連携し、ケアマネジメントの手法について、医療・保健・介護等を包括的に捉えた研修を行い、ケアマネジャー個々の資質が向上しました。
- ・特定事業所加算の要件でもある定期的な部門会議を開催して、ケースの共有ならびに各ケアマネジャーの給付上限件数を調整しながら、収入の安定を図りました。

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
年間契約者数	57	38	10	17	3	125

(件)

## 【VI】サービス付き高齢者向け住宅『かやの樹』

### 1. 自立した豊かな生活の継続

<健康を支える食事について>

○食事の質の向上

- ・管理栄養士を中心に、ご入居者の入れ替わりによる嗜好の変化、食材の仕様、費用高騰等を受け、食事デザインのフルモデルチェンジを11月より行いました。
- ・6品構成から5品構成に変更。トレイをサイズダウンして凝集感による視覚的な改善をしました。
- ・外食産業を意識したメニューの再構築を行いました。
- ・良い食材、適正価格を考慮し、魚屋の業者を変更しました。
- ・主菜の肉、魚のグラムを増量しました（ボリューム感の改善）。
- ・塩分計を使用し味の統一を図りました（味にバラツキがあるとのこと指摘を受けて）。

※ご入居者の反応は良好で残食が減っています。

※ご入居されてから体重増加や栄養状態の改善等の所見があり、健康維持につながっています。

<安全で快適な環境整備>

- ・水回りの環境整備（便器の交換・シャワーホース・風呂桶・水道蛇口の修理等）をオーナーの協力のもと実施しました。

※今後、各室の壁紙の張り替えやエアコンの修理買い替え等の必要があります。

<認知症の方が安心して生活ができるサポート体制>

- ・デイサービスの送り迎え、準備の支援提供により、ほぼ100%当日のご利用ができました。
- ・エアコン調整、水分補給、昼食の提供、服薬管理、家族との連携、外部事業者との調整は前年度に続けて実施しました。
- ・外部介護サービスを利用し安全と安心な生活を整えました。
- ・他のご入居者との良好な関係の維持に努めました。

### 2. 地域に開かれた施設運営

<地域との交流>

- ・大場一心会、大場地域ケアプラザ等が主催する行事への参加が増えました。（体操、パターゴルフ、老人会など）
- ・年2回の防災訓練時には、大場一心会会長にもご参加いただき、地域の防災状況や対策について情報を得ることができ、地域交流にもつながっています。
- ・近隣住民の入居、見学者、相談者が増えています。
- ・横浜総合病院の理学療法士による転倒予防体操に近隣住民の参加がありました。今後も継続してその機会を増やしたいと考えています。

### 3. 長く働き続けられる職場作りと信頼される職員を目指します

- ・昨年に続き、離職者は一人もおりませんでした。
- ・安定した勤務体制作りの為に、昨年度に職員1名を増員したことで、年間を通じて無理のない勤務体

制を組むことができました。

- ・ご入居者と職員の信頼関係の向上の為、日々の申し送りや会議等の場で、きめ細かな情報の共有と統一対応に努めました。また、ご要望などには迅速に対応することで信頼関係の向上につながりました。

#### 4. ご入居者状況 14名定員（令和5年3月31日現在）

- ・年間入居稼働率（14床）**97.5%**。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
%	92.8	97	95.4	93	99.5	100	100	100	100	100	93	99.3

- ・平均年齢 84.1 歳。  
男性ご入居者の割合が増えました（女性 9 名、男性 5 名）。
- ・介護度状況。  
要支援 1 =（2 名） 要支援 2 =（4 名） 要介護 1 =（6 名） 要介護 2 =（2 名）
- ・短期（3 ヶ月）のご入居者 1 名を初めて受け入れました。  
骨折にて横浜総合病院退院後、一人暮らしは困難とのことで 3 ヶ月の短期入居。その後、回復されご自宅に戻られています。
- ・今年度は 6 名の退居と入居がありました（前年度までは年間で 2～3 名）。
- ・長く（10 年近く）ご入居されていた 3 名の退居もあり、運営開始から 14 名全ご入居者が入れ替わった状況にあります。

#### 5. サービス等の利用状況（年）

- ・かやの樹バス…利用延べ人数 272 人（バスの連絡マニュアルを作成）。
  - ・かやの樹の集い…参加延べ人数 85 人。
  - ・かやの樹カフェ…延べ人数 80 人。  
※集いとカフェは、主にご入居者と職員の情報交換の場として設けていましたが、前年度から半数の参加状況となり、特に男性の参加が減少しています（内容について再検討が必要だと考えています）。
  - ・外出支援サービス…9 件、18 時間（受診付き添い）。
  - ・貸館…8 件。  
※コロナ禍により、外部からの申し込みがありませんでした。来年度は、地域のボランティア等にも呼びかけ、貸館の積極的な働きかけを行う予定です。
  - ・移動販売とくし丸…延べ人数 140 人。
  - ・かやの樹体操…月 2 回、7 月より開始（延べ人数 102 人）。  
※横浜総合病院理学療法士による体操には、男性の参加者が増加傾向にあります。
  - ・服薬管理…6 名。
  - ・朝食提供者…12 名。  
※14 名中、12 名の方が朝食を希望。
- 【外部サービス利用状況】
- ・訪問介護利用者…11 名。
  - ・通所介護利用者…8 名。

- ・訪問看護・・・2名。

※法人のサービス利用については、お元気な方が増えたこともあり減少しています。

## 6. 新型コロナ感染症対策及び発生状況

- ・消毒、換気、マスク着用、ワクチン接種、体温測定等の感染対策は昨年同様に実施しました。
- ・初めてご入居者1名の発症がありました（男性 令和4年7月）。かやの樹での療養となりましたが他者への感染はなくご本人も回復され、現在もお元気に生活されています。
- ・職員の発症者なし。

## 7. その他

- ・令和5年4月から食事代の改定（値上げ）を予定しています。

※朝食 300円→500円、夕食 1,000円→1,200円。3月中に、全ご入居者へ説明し同意を得ています。

<p>&lt;朝食単価&gt;  <math>1,349,784 \div 2,402 \text{食(朝合計食数)} = 562 \text{円}</math>          従来金額 <u>300円</u> - 562円 = -262円          改定額：<u>500円</u></p>	<p>&lt;夕食単価&gt;  <math>2,659,079 \text{円} \div 2,657 \text{食(夕合計食数)} = 1,001 \text{円}</math>          従来金額 <u>1,000円</u> - 1,001円 = -1円          改定額：<u>1,200円</u></p>
---	--

※改定前は年間マイナス費用が100万円を超える見込みでしたが、改定により給食費のマイナスは解消します。

### <令和4度行事報告>

- ・ご入居者の誕生日にお花と誕生カードを贈呈。
- ・毎月1回以上の行事食を提供。
- ・かやの樹のカフェ（毎月1回）、かやの樹の集い（毎月1回）、フラワー教室（毎月1回）。

実施月	内容
4月	
5月	端午の節句（柏餅提供）
6月	外出行事：あじさい寺へ観賞／外食
7月	
8月	手持ち花火大会 屋台（お祭り）手作り弁当提供（昼食）
9月	敬老祝賀会
10月	手作り駅弁提供（昼食） 外出行事：里山ガーデン散策／外食 ハロウィン
11月	避難訓練
12月	お餅つき大会（緑の郷） 外出行事：三溪園（紅葉）／外食 クリスマス

	忘年会
令和4年1月	元旦祝賀会 1/1～1/3 手作り弁当提供（昼食） 初詣（琴平神社）
2月	節分（豆まき）
3月	外出行事：お花見（桜）／ドライブ／外食 手作りお花見弁当提供（昼食） ひな祭り 避難訓練

## [VII] 新緑の郷

### —方針—

- ・ご入居者の尊厳を守る介護、ご家族と共に支える介護の提供を目指します。
- ・入居者の特性に合わせたフロア作りや業務改善を推進します。
- ・チームワークの向上を目指します。
- ・職員のスキルアップ、自己実現できる環境整備を行います。
- ・加算の取得、稼働率の向上、経費削減等を意識し安定経営に努めます。

### ■ 全体

令和4年度は、8月と11月に新型コロナウイルス感染症によるクラスターを経験しました。本入居に関してはコロナウイルスの感染が引き金となりお亡くなりになる方や入院先から戻れない方も多数おり、運営を開始してから、最低の稼働率となりました。

また、職員の縦の動きや集団での会議等についても制限をかけていたため、十分な職種間連携や研修等を実施する事ができませんでした。

ご入居者の処遇については、フロアやユニット毎で感染対策に取り組み、余暇活動やレク活動を実施しました。

地域交流活動は、施設を使つての地域展開は、新型コロナの影響でできませんでした。しかしながら、今年に入ってから、地域住民等の集まりに様々な職種が呼ばれるようになり講師をする機会も得ることができるようになりました。

### ■ 1 看護課

#### ■ 看護係

(1) ご入居者の心身の健康の維持、増進に努め、穏やかな日常生活を送ることができるようにします

- ・8月と11月の新型コロナウイルス感染症に罹患される方多数にて、長期にわたり普段とは違う生活を送ることとなってしまいました。
- ・新型コロナの感染がきっかけとなり、体力や気力が著しく低下したご入居者、入院後に施設に戻れなかった方、感染が引き金となり亡くなる方もおられました。
- ・全体的に穏やかな生活を送る事ができた1年とは言い難い状況でした。

(2) クリニックとの連携を強化し、最期まで安心した暮らしを提供します

- ・看取りについては、ご家族との関りに重点をおき、コロナ禍ではありましたが感染対策を踏まえたご入居者との面会も行い、穏やかな看取り対応ができました。
- ・新型コロナのワクチン接種や感染者対応についても嘱託医の協力を得て的確に実施できました。

<臨時往診数 591件（前年度314件）>

- ・外部受診数 28件（前年度27件）、入院 21件
- ・救急搬送数 14件（前年度9件）
- ※コロナ感染での救急搬送8件含む

- ・施設での看取り数 19 件
- ・入院先での死亡、転院数 12 件

**(3) 入居や地域の方のショートステイの受け入れについては対応力を高め、出来る限りの医療行為を含めた対応をしていきます**

- ・新型コロナのクラスター発生により、ショートステイの受け入れができない時期もありましたが、クラスター解除のタイミングで感染対応に留意しながら徐々に利用者数は増加しました。
- ・短期入居利用直後に発熱、コロナ陽性が判明するご利用者もいましたが、嘱託医の協力の下、即日退所し在宅診療に切替えるケースもありました。結果、施設内感染を防ぐことができました。

**(4) 施設内外の研修に参加し、職員自身の意欲向上とスキルアップを目指します**

- ・新型コロナ感染予防の観点から、施設内でも研修の実施や外部研修への参加は難しかったです。
- ・研修やスキルアップ以前に、コロナ禍で業務を遂行する為の自身の体調管理やモチベーションの維持をすることで精一杯でした。

**■ リハビリ係**

**(1) ご入居者の生活に合わせた訓練を実施し、維持、改善に努めます。又、他職種との連携を強化し、情報共有を図ります**

- ・施設内においてのクラスターやその後の新型コロナ感染症対策中は、感染予防の為に定期的な集団体操も実施できず、ご入居者の体を動かす機会を失いました。
- ・集団体操については実施が難しかったです。個別のリハビリやフロアからの個別相談には積極的に応じました。
- ・委員会への参加や体操、福祉用具の調整、介護相談などを通し、他職種との連携についてはスムーズに取れていました。

**■ 2 生活課**

**■ フロア係**

**(1) ご入居者の一人一人の思いを実現できる体制やシステムづくりを行い、共通の目標を持ったチームでご入居者の生活を支えます**

- ・今年度は各フロア、ユニットごとに職員から意見を募って事業計画を立て、チームとして目標も持ってもらうことができました。
- ・人員配置としては厳しい状況が続き、ご入居者一人一人の思いを実現できる勤務体制を作ることはできませんでしたが、日々の関わりの中でのご本人の言葉を大切にとらえ、記録に残し情報を共有することができました。
- ・特に食に対する希望については、できる限りご本人の希望を叶えられるよう、ご家族も含め全セッションで検討し、その方に合わせたルール作りをすることができました。
- ・認知症対応のユニットにて夕食後、就前など不安で落ち着かないご入居者に寄り添えるよう、勤務時間の変更を行いました。

- ・コロナ禍で制限がある中でも、100歳のお祝い会、喫茶店、出前企画、風船バレー大会、音楽療法、園芸、お花見散歩、フラワーアレンジメント、敬老会などを実施し、ご入居者の笑顔を引き出す機会を作ることができました。

## (2) コロナ禍で直接会えない状況が続く中でも、ご家族に安心していただけるような関係作りに積極的に取り組みます

- ・ご家族へ必要物品の依頼の電話をする際に、可能な限りご本人と電話で直接話してもらう機会を作り、ご本人もご家族もとても喜ばれていました。
- ・事務所の協力もあり、ご家族来訪時、職員から積極的に日ごろの様子をお伝えできました。面会時の様子は詳しく記録として残っており、情報共有に役立てました。
- ・リスクマネジメント委員会で毎月、ヒヤリハット・事故の分析（後追い）を行い、同じ事故を繰り返さないための対策を立てることができています。
- ・食事量の低下など状態変化時には、看護課、施設ケアマネジャーと相談し、なるべく早い段階でご家族へお知らせし、今後の方向性について考えていただくお願いをしました。ご家族によっては直接会えていなかったこともあり、「こんなに痩せてしまって…」と言われる方もいらっしゃいました。
- ・看取り期には、ご家族に居室での直接面会を行ってもらい、「ここで母もみなさんと楽しい時間を過ごしていたのですね」「本当に細やかにみてもらっていたのが分かりました」などのお言葉をご家族からいただくことができました。
- ・施設ケアマネジャーと協力し、行事や余暇活動参加時の写真に日常の様子記載したお手紙を定期的にご家族へ送ることができ、ご家族からもお礼の言葉をいただくことができました。

## (3) 職員の定着率を高めるため、職員間で良好なコミュニケーションを図り、一人ひとりに合わせたスキルアップができる仕組み作りを行います

- ・今年度は施設長（常勤対象）、施設長補佐（非常勤対象）との面談の機会があり、面談後はそれぞれが目標を持ち、業務に取り組んでいる姿が見られました。また、なかなか普段言いづらかったことも、吐き出してもらう機会にもなっていました。
- ・ユニット会議も継続して行う事で、職員から議題があがることも増え、有意義な時間となりました。意見交換をすることで、苦手な業務もフォローし合えるようになっていきます。
- ・「誉め言葉のシャワー」を実施し、スタッフ一人一人の新たな魅力を見出すことができました。
- ・ご入居者の対応については、月1回のフロア会議での検討では遅くなってしまうため、ミニ会議を都度行い、タイムリーに対応を検討することができました。
- ・全体研修も書面開催が多くなってしまいましたが、普段参加できない職員も定期的に学ぶことができました。
- ・移乗介助については不安に感じているスタッフが多く、腰に負担をかけない介助方法や、スライディングボードを使っでの介助方法を勉強し、実践することができました。
- ・介護福祉士の資格取得へ向け、勤務内での実務者研修への参加や、介護福祉士の試験対策を行いました。介護福祉士の試験に8名受験し6名合格することができました。
- ・新入職員の教育については、目標の指導スケジュール（3か月で夜勤ができるようになる）では厳し

いことも多く、その都度その職員に合わせたスケジュールで教育を行いました。採用時の面接時の話と、現場の認識がずれている事があり、指導する側もされる側も戸惑ってしまうことがありました。今後は、指導スケジュールの目標や、指導方法、チェック項目など、共通認識のもと行えるように整備したいと考えています。

## ■ 相談係

### (1) ご入居者本位の支援と、ご家族の信頼を得られる関係づくりに努め、専門職の資質の向上に努めます

令和3年度より引続きコロナ感染対策としてご家族面会を、窓越しにして実施。この状況にご家族や対応するスタッフともに慣れて来ており、スムーズに行うことができています。また、日頃からコミュニケーションを心掛けることで、本入居、ショートステイともにご家族からの大きな苦情やご意見をいただくことなく、比較的良好な関係を構築することができました。

8月、11月のクラスター発生時、感染された特定のご家族からのご意見はあったものの、おおよそ他ご家族の大きな混乱もなく対応ができていました。

余暇活動として、書道、折り紙のクラブ活動を相談員が中心となり行いました。昨年に比べ実施回数はクラスター発生もあり減少しました。

### (2) 施設の経営安定化を目指し、本入居、ショートステイの稼働率向上に努めます

<従来型稼働率>

月	入退居判定委員会	入居者	退居者	退居理由	稼働率
4	2	0	0		100%
5	2	1	3	永眠(3)	99.5%
6	1	2	0		97.7%
7	1	2	1	永眠(1)	99.1%
8	1	0	0		100%
9	1	0	3	永眠(3)	98.1%
10	2	1	0		97.5%
11	1	2	2	永眠(2)	97.8%
12	1	0	6	永眠(6)	94.8%
1	3	2	4	永眠(3)・入院(1)	91.1%
2	3	6	2	永眠(1)・入院(1)	90.1%
3	1	2	1	永眠(2)	93.2%
合計	19	18	22		98.7%

上半期は、前年度の後半から入居面接数を増やし、待機者のコントロールをすることで入退去をスムーズに行うことができました。その結果安定した稼働率となっています。下期は8月からの1ヶ月程と11月から2か月半程続いた、新型コロナウイルス感染によるクラスターの影響で感染された入居者の退所が12月、1月に急激に増えました。近隣の施設でもクラスターの発生が増え、入居や入居面談が延期に

なる等で稼働率が落ち込んだ結果となっています。また、5年目を迎え、入居期間が3～4年を経過したご入居者がターミナル期に入る方が多く退去される方が増えていることも原因となっています。

(年間申込者平均 女性 187.3名 男性 117名)

<ユニット型稼働率>

月	入退居判定委員会	入居者	退居者	退居理由	稼働率
4	1	1	1	永眠(1)	98.3%
5	0	1	0		99.9%
6	1	0	1	永眠(1)	99.2%
7	0	1	1	永眠(1)	97.9%
8	0	0	1	永眠(1)	95.1%
9	1	1	0		97.1%
10	1	1	0		99.5%
11	2	0	0		100%
12	0	0	0		100%
1	1	0	1	永眠(1)	98.1%
2	0	0	1	永眠(1)	95.7%
3	0	3	1	永眠(1)	97.9%
合計	7	8	7	永眠(1)	98.2%

年間を通し安定して稼働することができています。実際には近隣に新しい施設の開設や入居申し込み者の減少によりユニット型への申込者が減って来ている状況です。特に下半期からは申込者が60名台となっており入居につなげることが非常に困難な状況になっています。

(年間入居申込者平均 61.1名)

<短期入所年間利用状況>

月	合計		稼働率
	利用人数	延日数	
4月	10名	139日	33.1%
5月	7名	105日	24.1%
6月	12名	73日	17.3%
7月	9名	59日	13.5%
8月	3名	28日	6.4%
9月	12名	60日	14.2%
10月	10名	63日	14.5%
11月	7名	83日	19.7%
12月	8名	96日	22.1%
1月	12名	144日	34.2%
2月	9名	65日	16.5%

3月	12名	74日	17.0%
合計	111名	989日	19.3%

令和3年度途中より、新規受入を実施し稼働率30%を目標として行いました。6・7月は女性居室から男性居室への転換の兼ね合い、8月からはクラスターの発生により稼働率の低下が見られています。

<特養年間稼働率>

月	従来型	ユニット型	ショートステイ	総稼働率
4	100%	98.3%	33.1%	92.6%
5	99.5%	99.9%	24.1%	91.8%
6	97.7%	99.2%	17.3%	89.9%
7	99.1%	97.9%	13.5%	90.0%
8	100%	95.1%	6.4%	88.9%
9	98.1%	97.1%	14.2%	89.2%
10	97.5%	99.5%	14.5%	89.2%
11	97.8%	100%	19.7%	90.7%
12	94.8%	100%	22.1%	88.9%
1	91.1%	98.1%	34.2%	87.2%
2	90.1%	95.7%	16.5%	84.1%
3	93.2%	97.9%	17.0%	86.7%
平均	98.7%	98.2%	19.3%	89.1%

・どのサービスも稼働率の合計では昨年度(令和3年度)とほぼ同様となっています。

**(3) 地域との関係づくりに努め、社会資源の一つとして地域住民に利用して頂ける施設を目指します。**

<地域活動参加状況>

月	日	内容	月	内容
10	27	リモートじゃんけん大会	6~11	暮らしの川柳作品応募
2	15	オンラインマジックショー		

・リモートで行うことができる企画への参加をしています。オンラインでのマジックショーは、今年度初めて参加しました。複数のフロアで同時にウェブを使用することは初めて行い、機材等での課題がありました。

・川崎市社協で主催の「食糧支援かわさき」には年2回職員からの食糧を集め提供。食糧支援に対しての募金活動も行い(12/26 6,143円 3/3 8,610円)お届けしています。

・11月には、橘地区社会福祉協議会より依頼があった「地域福祉講座」の講師を施設長が行いました。

<地域交流スペース貸出し状況>

コロナウイルス感染対策の為、令和4年度は貸出を休止しています。

### ■ 3 栄養調理課

(1) 食物品質と収支のバランスの安定化を図ります。食費の状況については集計システムにより、毎月報告します

- ・自作の月間食費計算システムを使用し、食費における収支状況を継続して分析する事ができました。課題としては食費における固定費としての管理費(主に人件費)の詳細から適正人員の配置という形で業務内容と費用のバランスを取る必要があります。

**(2) 栄養ケアマネジメント、経口維持、栄養ケアマネジメント強化加算については配置上限まで算定します。**

**【栄養マネジメント強化加算】**

管理栄養士2名体制により令和4年7月より多床室の栄養マネジメント強化加算算定を開始。

(ユニットは令和4年6月まで算定)

ユニット 40名 (440点/日) (13,420点/月)×3ヶ月間 (4~6月)

多床室 82名 (902点/日) (27,511点/月)×9か月間 (7~3月)

- ・管理栄養士有資格者の入職に伴いユニットの算定を中止し、多床室の算定へと切り替えました。加算算定できないユニットに関しても栄養マネジメント強化加算、LIFEへの報告業務は継続し行いました。コロナ感染によりご入居者が減少してしまった為、その分の算定はできませんでしたが、多床室全ご入居滞ることなく算定する事ができました。

**【経口維持加算】**

令和4年度 月平均算定 40名 (16,000点/月)

- ・経口維持加算を算定するために必要な多職種の作業を明確化させ、食事支援会議を活用し、該当者を選別、加算算定を行うことが継続してできました。
- ・コロナ感染によりご入居者が減少してしまった為、その分の加算額減少がありましたが、新ご入居者の算定に関しては3ヶ月以内で評価を行い、滞ることなく算定につなげることができたため、大幅な加算減には至りませんでした。

**(3) 毎月の行事食、100歳企画について食を通して相応しいお祝いをします**

**【100歳企画】**

令和4年 5月:1名 6月:1名、令和5年 3月:1名

- ・100歳のお祝いとしてご本人の思い出、家族の希望、嚥下機能等に応じた手作りケーキを提供する事ができました。該当ご入居者のご家族からは直接感謝の言葉を聞くことができました。

**【毎月の行事食】**

- ・季節に応じたお楽しみ食、おやつの日、誕生会ケーキを提供する事ができました。

**【その他行事】**

- ・梅ジュース作り ユニットの調理企画として、梅ジュースを作成する事ができました。  
※各セクションの協力を得ることができた為、事業計画に追加し行いました。

**(4) 職場環境改善、職員健康管理として「衛生新聞」を発行、情報提供します**

<健康情報の発信>

- ・職員の健康状態に応じた健康情報の提供として、定期的に衛生新聞を発行、家庭でできる、簡単健康レシピの紹介を行いました。

- ・美しが丘地域ケアプラザ、たまプラーザ地域ケアプラザ企画において栄養講座を行いました。参加地域住民に対し、食を通じた健康講座、レシピ紹介等を行いました。  
※コロナ禍で中止されていたが再開されたため、地域への発信も事業計画に追加しました。

#### (5) 加算算定方法、給食管理方法について標準化の為のマニュアルを作成します

- ・経口維持加算は入居後3ヶ月で算定する事ができました。
- ・給食管理方法の標準化を図り、内容を理解し入力作業など行えるようマニュアルを作成する事ができました。問題点もある為、随時、更新していく必要があります。

#### (6) 研究発表

関東ブロック大会 題名「皆でつくる栄養ケアマネジメント」

川崎市より選ばれ関東ブロック大会へ出場。

※令和4年度については計画をしていませんでしたが、川崎市より依頼があり参加しました。

### ■ 4 事務課

#### (1) 明るく信頼の得られる窓口、電話対応を行います

- ・事務課の会議等で窓口対応の印象で入居や就職につながるケースもあることを確認しました。明るく信頼の得られる事務受付の方法については、常に共通の対応ができるよう心掛けました。
- ・外部からの来訪、電話等、事務室内で共有できるように、ホワイトボードを活用する等、確実に取次ぎを行うことができるように工夫をしました。

#### (2) 物品の管理を適正に行い経費削減に努めます

- ・物品の購入時に複数の業者の金額を比較できるよう情報の収集を行い、事務課内で検討し購入を進めることでコストの削減につなげています。
- ・費用が発生する物について、物品購入依頼の提出等をシステム化し、適正な管理を行うことができるようになりました。

#### (3) 国保連・利用者請求を適正に行います。

- ・請求で利用者にご迷惑を掛けるケースはなく大きな苦情へつながることもありませんでした。
- ・チェック不足により請求できなかった費用がありました。回数としては一回のミスではありましたが、再発防止策としてチェック方法を変更しました。今後大きな損失につながる事が無いように対応して行きます。

#### (4) 館内の環境美化に努めます。

- ・清掃担当が直営となり大きなコストダウンにつげることができました。
- ・年度途中からですが、目標の人員で勤務を行うことができるようになり、安定したシフトを組むことができています。
- ・掃除内容の統一や方法の確認をするために、会議の場を設けました。年度内には、2回の開催となりま

したが、清掃担当職員の研修にもなっているため、今後も定期開催を予定しています。

- ・入館したご家族、見学者、業者等から「とても綺麗にされている」と言葉をいただく事が増えました。

#### (5) 令和4年度職員の入退職状況

令和4年度	入職（常勤）	退職（常勤）	入職（非常勤）	退職（非常勤）
4月	3	0	4	1
5月	0	0	0	1
6月	0	1	1（留学生）	0
7月	1	1	2	0
8月	0	0	1	0
9月	1	1	0	1
10月	2	0	0	1
11月	0	0	0	0
12月	0	2	1	0
1月	0	1	2	1
2月	1	3	1	0
3月	1	2	2	3
合計	9	11	14	8

《退職理由の内訳》 ※退職面談にて聞き取り

##### ○常勤職員について

- ・遠方への転居（2名）
- ・職場の雰囲気と合わない（2名）
- ・同業種への転職（1名）
- ・異業種への転職（1名）
- ・体調不良（1名）
- ・家庭の都合（1名）
- ・人間関係（1名）
- ・音信不通（1名）
- ・在留期間切れ（1名）

##### ○非常勤職員について

- ・定年（2名）
- ・人間関係（2名）
- ・転居（1名）
- ・異業種への転職（1名）
- ・体調不良（1名）
- ・家庭の都合（1名）

#### (6) 令和4年度 消防訓練実施状況

##### 第1回消防訓練実施結果

実施日時：令和5年1月6日 11：00～11：45

訓練参加人数：8名

訓練の種類：総合訓練

##### 第2回消防訓練実施結果

実施日時：令和5年3月27日 14：30～15：30

訓練参加人数：13名

訓練の種類：総合訓練

〔Ⅷ〕 桃の実

利用者状況（定員 20 名）

月	サービス提供日	利用延べ人数	月	サービス提供日	利用延べ人数
4 月	20 日	231 人	10 月	20 日	148 人
5 月	19 日	218 人	11 月	20 日	208 人
6 月	22 日	248 人	12 月	20 日	199 人
7 月	20 日	224 人	1 月	19 日	176 人
8 月	19 日	198 人	2 月	19 日	178 人
9 月	20 日	213 人	3 月	22 日	216 人

※年度合計 サービス提供日：240 日 年間利用延べ人数：2,457 人 1 日平均：10.24 人

※利用者登録数：14 名（区分 3=1 名 区分 4=5 名 区分 5=5 名 区分 6=3 名）【令和 5 年 3 月末日】

- ・登録者 1 名はコロナ感染予防の関係上令和 3 年 1 月より利用実績がなく、もう 1 名は令和 4 年 2 月より療育施設に入所されているため長期休みとなっています。
- ・利用打ち切り者は 2 名。施設内の環境に適應できないとご家族が判断し、将来を見据えたうえで 7 月に 1 名、3 月に 1 名の方が利用を辞められています。
- ・実習生は 0 名。（年度初めの段階では登録者が 16 名、新規ご利用者が 2 名となっており、コロナ禍も踏まえて増員は検討しておらず支援学校にその旨伝えていたため）
- ・体験学習の受入れに関しては、2 名（麻生養護学校より）。

◎利用状況に関しては、2 名の方が年度の途中で打ち切り（7・3 月）となったこと、10 月 14 日～26 日の間と 1 月 10 日～13 日の間でコロナ感染がご利用者・職員に確認され希望者のみの利用となったこと、2 月 10 日に大雪の為 3 名の利用となったことなどを含め 1 日平均が昨年度の 10.47 人⇒10.24 人と下がっています。次年度は中途でのご利用者の獲得と次々年度に向けて実習生の受入れや行政機関や計画相談員と連携を密にし、準備を行います。

1. 活動について

【行事・レクリエーション実績】

月	内 容	月	内 容
4 月	美しが丘西地区センター 調理（カレー作り） 外出（寺家ふるさと村） 鯉のぼり鑑賞（緑の郷にて） ボッチャ（美しが丘地域ケアプラザにて） 落ち葉清掃（すすき野団地）	10 月	外出（寺家ふるさと村） 美しが丘西地区センター 健康診断（希望者のみ） ボッチャ（美しが丘地域ケアプラザにて） 調理（カレー作り） お楽しみ食事会（六角弁当） うれしいのしいえこたマルシェ出店 （荏子田太陽公園） もゆフェス協力参加 （美しが丘地域ケアプラザ共催）

5月	<p>美しが丘西地区センター 調理（カレー作り） ポッチャ（美しが丘地域ケアプラザにて） 外出2回（寺家ふるさと村・東高根森林公園） ウェルカフェマルシェ出店 （ハック美しが丘店） マンション草むしり（元石川町）</p>	11月	<p>インフルエンザ予防接種（希望者のみ） 外出2回（寺家ふるさと村・東高根森林公園） 美しが丘西地区センター ポッチャ（美しが丘地域ケアプラザにて） 調理（カレー作り） さつまいも掘り 保木公園フェス出店 お楽しみ食事会（ラーメン：緑の郷にて）</p>
6月	<p>美しが丘西地区センター 調理（カレー作り） ポッチャ（美しが丘地域ケアプラザにて） 外出2回（寺家ふるさと村・東高根森林公園） 蜜蝋収穫作業（すすき野団地にて） 梅収穫（緑の郷にて） じゃがいも掘り（シェア畑にて） 保木公園清掃活動</p>	12月	<p>餅つき（緑の郷にて） 障がい者キャンペーン参加 （映画上映会・書籍展示：山内図書館） （バザー：市ヶ尾駅） あおばカノン（出店と展示） すすき野団地歳末フェア出店 ポッチャ（美しが丘地域ケアプラザにて） クリスマス会 外出2回（寺家ふるさと村・東高根森林公園） 調理（カレー作り） エコボール（白山高校） 桃の実体操（横浜総合病院 PT ボラ講師） 大掃除</p>
7月	<p>外出2回（寺家ふるさと村） 調理（カレー作り） ポッチャ（美しが丘地域ケアプラザにて） 美しが丘西地区センター</p>	令和 5年 1月	<p>初詣（琴平神社） 調理（カレー作り） 外出（薬師池公園） 防災訓練 ポッチャ（美しが丘地域ケアプラザにて）</p>
8月	<p>外出（寺家ふるさと村） 調理（カレー作り） ポッチャ（美しが丘地域ケアプラザにて）</p>	2月	<p>調理（カレー作り）・ポッチャ 外出（四季の森公園） 美しが丘西地区センター こどもの国外出 すすき野防災フェア出店（嶮山公園） 桃の実体操（横浜総合病院 PT ボラ講師）</p>
9月	<p>外出2回（寺家ふるさと村・東高根森林公園） 美しが丘西地区センター・ポッチャ 調理（カレー作り） キャンドルアート作り （美しが丘地域ケアプラザ講師） ココはず作品展出店</p>	3月	<p>調理（カレー作り）・ポッチャ 美しが丘西地区センター 桃の実体操（横浜総合病院 PT ボラ講師） 防災訓練 外出（東高根森林公園） お花見（薬師池公園）</p>

## <作業・活動>

### ・継続した受注作業

一般社団法人「団地暮らしの共創」（すすき野団地）より依頼されている、定期的なチラシの折り込みと配布作業を継続しています（470 チラシ、270 配布）。また、メテオ APAC 株式会社（あざみ野）からのシール貼りや袋詰めなどの受注も継続して行っています。

### ・新しい受注作業

地域の方（民生委員）よりご自身が所有するマンションの草刈りの依頼を受けている（1 m<sup>2</sup>=100 円と法人内で取り決めている為、今回は 50 m<sup>2</sup>のため 5 千円の収入となりました）。今後については必要時相談して下さることになっています。

### ・野球ボールの修繕（エコボール）

公立高校の白山高校よりご依頼をいただき 12 月に 53 個納めています。また、生田東高校より相談の連絡がありましたが、皮の交換依頼であった為不成立になっています。

### ・畑、麦作業

昨年度より行っている、桃の実に隣接しているシェア畑での野菜作りと地域の方のご厚意で農地の一部をお借りしての麦作りは継続して行っています。野菜は日頃の灌水作業やカレーの材料、ご自宅へのお土産に、麦は作業品として使用しています。

### ・自立課題

個々の特性に合わせて定期的に提供している作業（プットイン、ネジ締め、シュレッダー、マッチングなど）とご本人に合わせて新しい作業内容（計量測定、木工作業など）も随時取り入れています

### ・その他

ご家族より運動の機会を多く設けて欲しいとの声が多く聞かれることもあり、新しい取り組みとして桃の実スタッフにより気功体操（毎週月曜日）と横浜総合病院の理学療法士（地域貢献のため無料）による桃の実体操（月 2 回）を取り入れています。また、レクリエーションとして玉入れや輪投げ、ボウリングなども実施しました。

◎コロナの状況に合わせながら、事業所内を中心に個々と全体に合わせたプログラムを検討・提供していきました。次年度は「持っている能力を発揮できる場」と「新しいことへの挑戦」をテーマに支援してまいります。

## 2. 地域との連携について

- ・引き続き、保木公園愛護会より依頼をいただいている、公園内の花壇の整備と花植え、堆肥づくり、落葉掃除などの活動を実施しました。
- ・すすき野団地（団地暮らしの共創）からはポスティングに加え、落ち葉清掃や蜜蝋収穫作業などの新しい活動の案内もいただき参加しています。
- ・あしたば工芸（緑区）より蜜蝋ラップの作り方の講師依頼があったため、スタッフが出張し協力しています。
- ・えだ福祉ホームから、畑活動の参加の声が掛かりましたが、場所が遠方であった為 1 度参加し以降は不参加となっています。（場所：青葉 IC 高架下畑）

(地域イベント：マルシェなど)

日にち	名称	場所	内容
5月14日	ウェルカフェマルシェ	ハックドラック美しが丘店	出店
10月15日	うれしたのしえこたマルシェ	荏子田太陽公園	出店
10月29日	もゆフェス	美しが丘小学校	ボッチャの提供
11月13日	保木公園フェス	保木公園	出店
12月3日	映画上映会	山内図書館	映画上映と出展
12月6日	バザー	市が尾駅	出店
12月8・9日	あおばカノン	青葉台フォーラム	出店と出展
12月11日	すすき野団地歳末フェア	すすき野団地内公園	出店
2月19日	すすき野防災フェア	嶮山公園	出店

※10月にウェルカフェマルシェを予定していましたが、コロナ陽性者がスタッフに出た為不参加に。

- ・美しが丘小学校からは、生徒や保護者に障がい者のことを知っていただきたいとの主旨で、ボッチャの提供依頼があり10月29日に美しが丘地域ケアプラザと共に参加しています。
- ・障がい者週間キャンペーン（区社協主催）では、事業所として映画上映会（12/3 山内図書館にて）とバザー（12/3 市が尾駅）に参加しています。
- ・「うれしたのしえこたマルシェ」は民生委員が中心となり、地域で障がい者の方の理解を勧めていきたいと相談があり立ち上げから関わっています。
- ・ココロはずむアート展に協力し、令和4年9月～令和5年1月まで各事業所での展示会に出展しました。スペースナナ（あざみ野）での展示の際にはご利用者と見学に行っています。定期的な打ち合わせにも参加しています。
- ・ボランティア協力活動  
コロナ禍であるため、屋外で行う活動（植栽関係とポスティング）と桃の実体操講師（1月より：医療従事者であるため）以外は受け入れを見合せました。

◎下半期頃より地域の祭りや行事などの催しが徐々に再開され声を掛けて頂ける機会が増えてきました。出店・出展に向けての作品作りや事業所を周知していただく機会、社会参加の機会など提供できる場面が増えて来ました。引き続き、ご利用者の地域との交流の機会、施設の周知、地域貢献を目指していきます。また、ボランティアの参入については現況のご利用者の支援に合った活動や支援の協力ボランティアの受け入れを検討していきたいと思っております。

### 3. 職員のスキルアップについて

- ・毎月全体会議を実施しています。ご利用者のケースや環境改善などに関わる意見交換の場を設けています。また、2月より支援員にリーダーを配置し、困っていること、処遇についてなどの相談や振り返りの機会を必要時に設けています。
- ・法人の階層別研修（ステップアップ研修、中級研修）に対象職員はそれぞれ参加しています。
- ・法人職員の協力の元、人権に関わる研修を全職員対象に実施しています。
- ・今年度より虐待に関する研修や委員会の設置が義務化されたため、委員を設け年4回の研修（緑の郷開催）に参加しています。

- ・常勤スタッフを対象に、強度行動障がい研修の受ける機会を設けました（今年度は1名）。
- ◎外部研修も徐々に再開（コロナ禍のため中止が多かった）されてきている為、事業所に必要と思われる研修への参加を常勤・非常勤問わず検討していきたいと思っております。

#### 4. 働きやすい職場づくりについて

- ・入退職職員は0名。
  - ・非常勤職員と面談を行い（年1回）、情報交換の場を設けました。
  - ・非常勤職員に関しては、ご家庭の環境などを考慮しながら新たな勤務時間の検討をして実施しました。
  - ・2月より支援員にリーダーを配置しています。働きやすい職場づくりを目指し、スタッフ間のコミュニケーションを密にとり改善を図ってまいります。
- ◎常勤、非常勤問わず、コミュニケーションを密に取り人間関係の構築を意識し、働きやすい環境づくり、離職者を防ぎ安定した職場環境を目指してまいります。

#### 5. 運営の安定について

- ・次年度より福祉職員配置等加算Ⅲを取得する予定となっております。
  - ・当日のご利用者人数によって、非常勤職員の理解を得ながら、勤務時間の短縮を行いました。
  - ・消耗品の、紙やビニール手袋などの購入先を変更しコスト削減につなげました。
- ◎積極的な実習生の受入れを行い、次々年度の新規ご利用者の獲得を目指してまいります。

#### 6. その他

##### <消防訓練実施状況>

- ・第1回消防訓練実施報告  
実施日時：令和5年1月17日（火） 10時10分～10時45分  
参加数：11名  
※水消火器を使用しての消火訓練と施設内の消火器の位置・操作確認を提供。
- ・第2回消防訓練実施報告  
実施日時：令和5年3月7日（火） 13時～14時10分  
参加数：15名  
※火災発生の通報訓練と避難訓練（机の下に身を隠す）、広域避難所（美しが丘西小学校）まで移動を行いました。

##### <新型コロナウイルス関連>

- ・感染予防対策として、継続して来訪時の検温測定、手指の消毒、マスクの着用、定期的な換気、ソーシャルディスタンス（アクリル板、パーテーションなどを使用）の確保、使用物品の消毒などを実施しました。また、12月～2月末までの期間（月・木曜日）は横浜市から配られた抗原検査チェック（キット）を使用しました。
- ・年間を通じて、10月と1月に職員・ご利用者・ご家族などで陽性者が確認され希望者のみの利用とする時期がありました（職員：5名 ご利用者：3名）。10月の陽性者確認後は10時と13時に検温を実施し再発防止に努めています。

<家族懇談会の開催>

- ・年度内での開催ができず（コロナ等により）、令和5年4月22日（土）10時30分～12時 緑の郷大ホールにて開催予定となりました。

<法人内各事業所間の連携>

- ・外出時の車両や運転手の協力（緑の郷、美しが丘地域ケアプラザ）があり、ドライブや散歩を定期的  
に実施することができました。
- ・餅つきや鯉のぼり、キャンドルアートなどの同法人の事業所でイベントが行われる際には情報提供が  
ある為、状況に応じて参加することができました。
- ・緑の郷の管理栄養士より提案があり、お楽しみ食事会としてご利用者の希望のメニューを提供するこ  
とができました（概ね3か月に1回）。

8月9日：カツカレー 10月13日：駅弁 10月25日：カツカレー 11月22日：ラーメン

以上